

第12回全国バズ学習研究集会

意欲的に課題に立ち向かい
自己実現をめざす子の育成

—学習集団を基盤とした指導法の改善—

指 導 案

1977.11.4



主催 全国バズ学習研究会
姫路市教育委員会
中播バズ学習研究会
姫路市立城南小学校

後援 兵庫県教育委員会

も く じ

1. 日 程	1
2. 開会行事	1
3. 公開授業一覧表	2
4. 校内案内図	3
控室案内	4
5. 公開授業指導案	
○ 1校時	5
○ 2校時	36
○ 学習の手引き	63
6. 分科会	78
7. 全体会	79
8. 講 演	80
9. 閉会行事	80

1 日 程

受付	開会行事	公開授業		昼食 リクレーション	分科会	全体会 指導助言	講演	閉会行事
		第1時	第2時					
8:00	8:50	10:00	10:50	11:30	12:25	14:50	15:40	16:40
8:50	9:50	10:40	11:30	12:20	14:40	15:40	16:40	16:50

2 開会行事 8:50 ~ 9:50

1. 挨拶 姫路市立城南小学校長 高馬正則
2. 歓迎の辞 姫路市立城南小学校育友会長 高橋弘郎
3. 経過と提案
 - 研究経過 城南小学校教諭 永井守
 - 基調提案
 - ・研究の概要 城南小学校教諭 森本俊和
 - ・教育機器活用について " 山本剛
 - ・教科指導について " 小暮国夫
4. 日程説明 城南小学校教頭 石原貢

3 公開授業一覧 (10:00 ~ 11:30)

第1校時 (10:00 ~ 10:40)

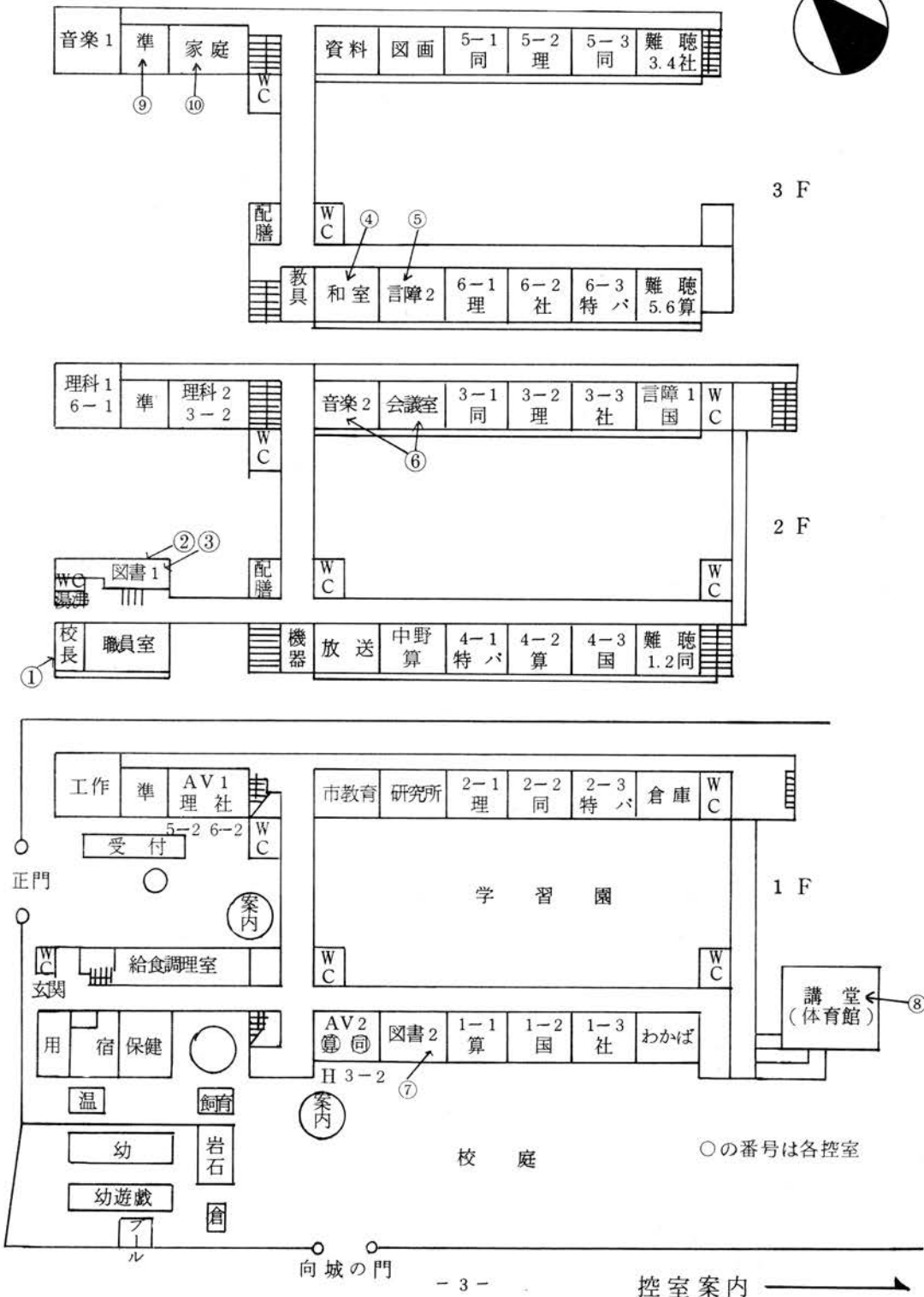
学年組	教科	単元 (題材)	指導者	場所
1の1	算数	カードとり	山下美佐子	A V 2
2の1	理科	しゃぼんだま	福田 典子	2の1
2の2	同和	願いを集団の場に出そう(これを読んでください)	中川 たつ	2の2
難1.2	同和	はげましあつてのびていこう(ハーモニカがしたい)	橋本ゆみ子	難1.2
3の3	社会	火事をふせぐ	谷村登志男	3の3
4の2	算数	変わり方	小暮 国夫	4の2
4の3	国語	ごんぎつね	安積 収	4の3
難3.4	社会	水害をふせぐ	小谷 孝司	難3.4
5の1	国語	わらぐつの中の神様	赤垣美智子	5の1
精薄4.5	算数	秋のくだもの	中野美保子	中野学級
6の1	理科	物が燃えるときの変化	堀江 廣實	理科室1
6の2	社会	大正の世の中	永井 守	A V 1

第2校時 (10:50 ~ 11:30)

学年組	教科	単元 (題材)	指導者	場所
1の2	国語	たぬきの糸車	富田てる子	1の2
1の3	社会	わたしのうちのいちにち	常陰 友子	1の3
2の3	特設バス	生活・学習バス	山本百合子	2の3
言障学級	国語	かいもの	三木やす子	言障1
3の1	同和	ひとりの願いをみんなで(わり算ばんざい)	沢田 映子	A V 2
3の2	理科	磁石の極	西影 裕一	理科室2
4の1	特設バス	生活・学習バス	小笠原一恵	4の1
5の2	理科	てこのはたらき	森本 俊和	A V 1
5の3	同和	川北さんにまけないぞ(川北さんの歩んできた道)	平井 均	5の3
6の3	特設バス	生活・学習バス	田中 誠	6の3
難5.6	算数	考えましょう(変わり方ーきまりの発見)	大畑 稔	難5.6

4 校内案内図

城南小学校校舎平面図



控 室 案 内

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------|-------------|
| 1. 来賓控室 | 校 長 室 | (2 階管理棟) |
| 2. 県市教育委員会控室 | 図 書 室 1 | (2 階管理棟) |
| 3. 分科会第 1 ～第 6
指導助言者・司会者・提案者控室 | 図 書 室 1 | (2 階管理棟) |
| 4. 分科会第 7 ～11
指導助言者・司会者・提案者控室 | 和 室 | (南校舎 3 階) |
| 5. 分科会記録者控室 | 言障第二教室 | (南校舎 3 階) |
| 6. 市内小・中・高等学校長控室 | 会 議 室 ・ 第 2 音 楽 室 | (北校舎 2 階) |
| 7. 他府県・他郡市学校長控室 | 図 書 室 2 | (南校舎 1 階) |
| 8. 一般会員控室 | 講 堂 | |
| 9. 中播バズ会員の受付け会場係控室 | 音 楽 室 | (北校舎 3 階) |
| 10. 育友会控室 | 家 庭 科 室 | (北校舎 3 階) |

昼食時のアトラクション (11:50 ～ 12:20) 於講堂

- | | | |
|---------------|----------|-------|
| 1. 城南小学校音楽クラブ | ・姫路市歌 | 他 2 曲 |
| 2. ママさんコーラス部 | ・しらさぎ草の歌 | 他 3 曲 |
| 3. 城南婦人会有志 | 舞踊・白鷺の城 | 他 1 曲 |

第 1 校 時

第1学年1組 算数科学習指導案

指導者 山下美佐子

1 単 元 カードとり

2 趣 旨

- このゲームは、さいころの目の6までの数と対応させてカードを取り合うものであり、2つの事象を関連づけて考えたり、1つの数を2つ以上の数と置き換えて考えたりできるようにすることをねらっている。これらは、数と計算の上で基本的な要素であるとともに、関数的な見方、考え方の重要な素地である。そのため、ゲーム化などして、児童に興味深く取り組ませて数を生活と結びつけることは大切である。
- ゲーム化した学習は、これまでに10までの合成、分解において、2人組4人組で何度か行なってきた。ゲームの進捗はチームにより差はあるが、ルールをつくるなどして自分たちで話し合いながら進められている。本単元のカードとりゲームをするには、10までの合成・分解が正確にできることが必要であるが、分解については、35名中6名が時間をかければできるが即答はできない。また、2つの事象を関連づけてみることは、日常無意識に経験してはいるが対応の見方、考え方についての学習は始めてである。
- カードの取り方については、2つ以上の数で取ってもよいことを児童の活動の中から気づかせていき、ゲームの方法や約束をはっきり理解させて、ゲームが円滑に行なわれるように配慮したい。また、今後も、数になじませたり、人間関係を高めるために、朝の会、特設バス、学級会など機会を見つけて、このような楽しいゲームを繰り返し行なっていきたい。

3 目 標

- さいころの目の出方の偶発性を経験させるとともに、さいころの目と数字カードの2つのことがらを対応させて、1つの数を2つ以上の数と置き換えて考えることができるようにする。

4 計 画（2時間）

- 第1時 1つの数をいくつかの数の和としてみる。 （本時分）
さいころの目の出方の偶発性を経験する。
- 第2時 さいころの目の数と数字カードの対応を考える。

5 本時の目標（第1時分）

- ルールを守って、仲良くゲームをしようとする態度を養う。
- 1つの数をいくつかの数の和とみることができるようさせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価																		
<p>考えてきたゲームで遊ぼう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> カードとりゲームをしよう。 </div>	<p>1. 2人1組で考えてきたゲームをする。</p> <p>2. 課題をつかみ、「カードとり」のゲーム1回目をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto;"> <table style="border-collapse: collapse; text-align: center; width: 100%;"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">1</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">2</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">3</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">4</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">5</td> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">6</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="border: none;">⋮</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px 5px;">1 2 3</td> <td colspan="3" style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">4 5 6</td> </tr> </table> </div>	1	2	3	4	5	6	⋮						1 2 3			4 5 6			<p>考えてきたゲームの方法とルールを相手にわかりやすく説明させる。</p> <p>児童の考えてきたゲームを取り上げ、やり方を全員に徹底させるために、前で実際にやらせる。</p> <p>質問やわかったことを発表させてしっかり確認させる。</p> <p>ゲーム中の質問は、ANで知り、個人指導をしたり後の話し合いの問題にさせる。</p>	<p>数字カード さいころ AN①</p> <p>TP AN②</p>	<p>ルールを守り さいころの目の数と対応するカードを取っているか。</p>
1	2	3	4	5	6																	
⋮																						
1 2 3			4 5 6																			
<p>どんな取り方をしたか。</p>	<p>3. カードの取り方について話し合う。</p>	<p>友だちの出すいろいろな取り方の例と自分の取り方とを比較させて、2、3枚取りの方法を理解させる。</p> <p>ANで2、3枚取りに気づがなかった児童を把握する。</p>	<p>数字カード さいころ ゲーム表 AN③ VID</p>																			
<p>取り方を工夫してカード取りをしよう。</p>	<p>4. 2回目のゲームをする。</p>	<p>①②のカードを1枚ずつ追加して、より多くの組み合わせを考えさせ、4人で結果を話し合わせる。</p>	<p>数字カード さいころ</p>	<p>2、3枚取りの工夫をしているか。</p>																		
<p>トランプの数と同じ数のカードを取ろう。</p>	<p>5. カードの取り方のまとめをする。</p>	<p>示範するトランプの数だけカードを取り、相互評価させ、できない友だちを援助させる。</p> <p>AN③で把握した児童が、できたか確認する。</p>	<p>TP 数字カード AN④</p>	<p>1つの数に対して、最低2枚取りが1組つくれたか。</p>																		

第2学年1組 理科学習指導案

指導者 福田典子

1 単 元 シャボンだま

2 趣 旨

- この単元では、とける物ととがす物の変化に目を向けさせ、せっけんをとがすことによって水がどのように変化したかについて調べさせる。せっけん水について、色やとけていく形など観察してきたことを、におい・手ざわり・あわだちなどにも広げていくようにする。もとのせっけんの形はなくなったが、液の中にせっけんが状態をかえて存在することを意識させ、水溶液の基礎的な概念をつちかかっていく。
- 児童は、1年生でくだものや花にしるのあることや、しるを取り出してあぶりだしをしたことによって、しるの中にものがとけこんでいることに気づいている。また、日常生活の中で、お風呂・手洗いなどでせっけんを使う機会は多いし、シャボンだま遊びをした経験も持っている。
- そこで、この単元ではせっけんを素材として、とがしっこやシャボンだま作りの遊びをとおして、とけるということを物の変化と水の変化の両面からとらえさせたい。

3 目 標

- 物が水にとけると、その物のようすがかわることに気づかせる。
- 物が水にとける速さは、粒の大小・水の暖かさなどで違いがあることに気づき、速くとがすことができるようにさせる。
- せっけん水の濃さは、水やせっけんの量によって加減できることに気づき、シャボンだまを作るのに適した濃さに調節できるようにさせる。

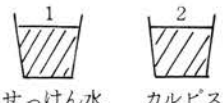


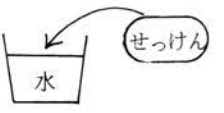
4 計 画（6時間）

- 第1次 学習計画をたてる……………1時間
- 第2次 シャボンだま遊び……………1時間（本時分）
- 第3次 せっけんのとがし方……………2時間
- 第4次 せっけん水の濃さ……………1時間
- 第5次 まとめと評価……………1時間

5 本時の目標

- せっけん水は、においがしたり、白くあわだったり、指につけるとぬるぬるしたりする性質があることに気づかせる。
- せっけん水を使うと、シャボンだまをふくことができることをつかませる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価															
<p>○せっけん水のあてっこをしよう。</p>	<p>1.せっけん水のあてっこをする。</p>  <p>せっけん水 カルビス</p>	<p>○色水とせっけん水のあてっこをし、学習意欲を高める。</p>	<p>せっけん水 カルビス コップ</p>																
<p>どちらがせっけん水か、調べよう。</p>																			
<p>○調べてみよう。</p>	<p>2.せっけん水を見分ける方法を話し合う。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目で ・鼻で ・指で ・舌で ・ストローでふいてみる(全体) <p>(グループ)</p> <p>3.観察する。</p>	<p>○自分の経験をもとにして考えさせる。</p> <p>○五感を通し、色々な方法で調べさせる。</p> <p>○危険なものではないが、調べ方に注意させ、共通点、違った点を見つけさせる。</p>	<p>T P</p>	<p>○本時のめあてがわかったか。</p> <p>○色々な調べ方のあることが、わかったか。</p> <p>○二つの液の相違点と類似点がわかったか。</p>															
<table border="1" data-bbox="438 918 774 1131"> <thead> <tr> <th></th> <th>せっけん水</th> <th>カルビス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>色</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>におい</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>味</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>てざわり</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		せっけん水	カルビス	色			におい			味			てざわり						
	せっけん水	カルビス																	
色																			
におい																			
味																			
てざわり																			
<p>○ストローでふいてみよう。</p>	<p>4.実験する。</p> <p>①あわができる。</p>  <p>せっけん水 カルビス</p> <p>②しゃぼんだまができる。</p> 	<p>○思い切り泡だてごっこをさせ、二つの液の違いを体得させたい。</p> <p>○しゃぼんだまのふき方を工夫させ、自由にとぼしあいをさせたい。</p>	<p>ストロー</p>	<p>○泡だてごっこから、二つの液の大きな違いがわかったか。</p>															
<p>○しゃぼんだまの水は、どうしたら作れるのだろう。</p>	<p>5.調べた結果を話し合う。</p> <p>6.次時の課題を予告する。</p> 																		

第2学年2組 同和学習指導案

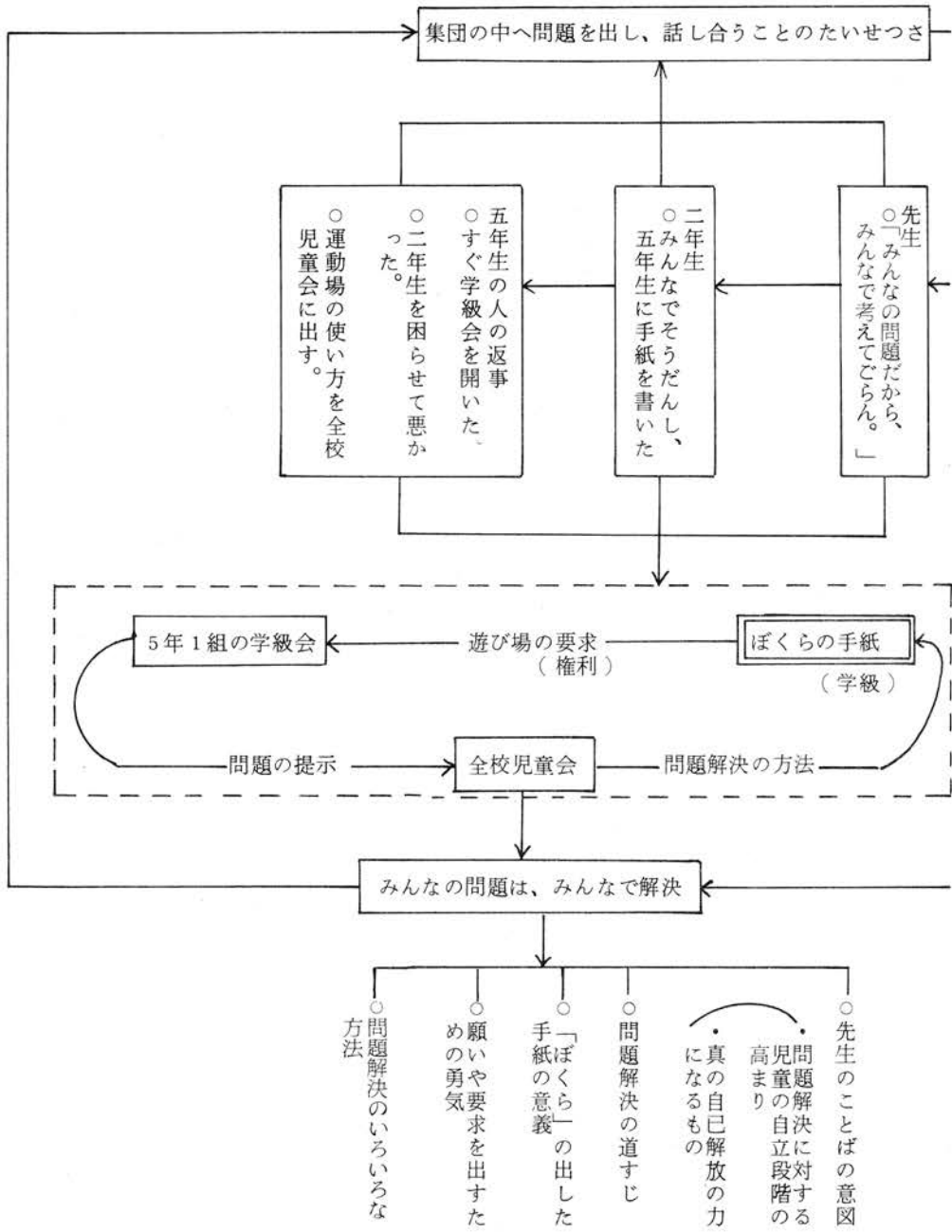
指導者 中川 たつ

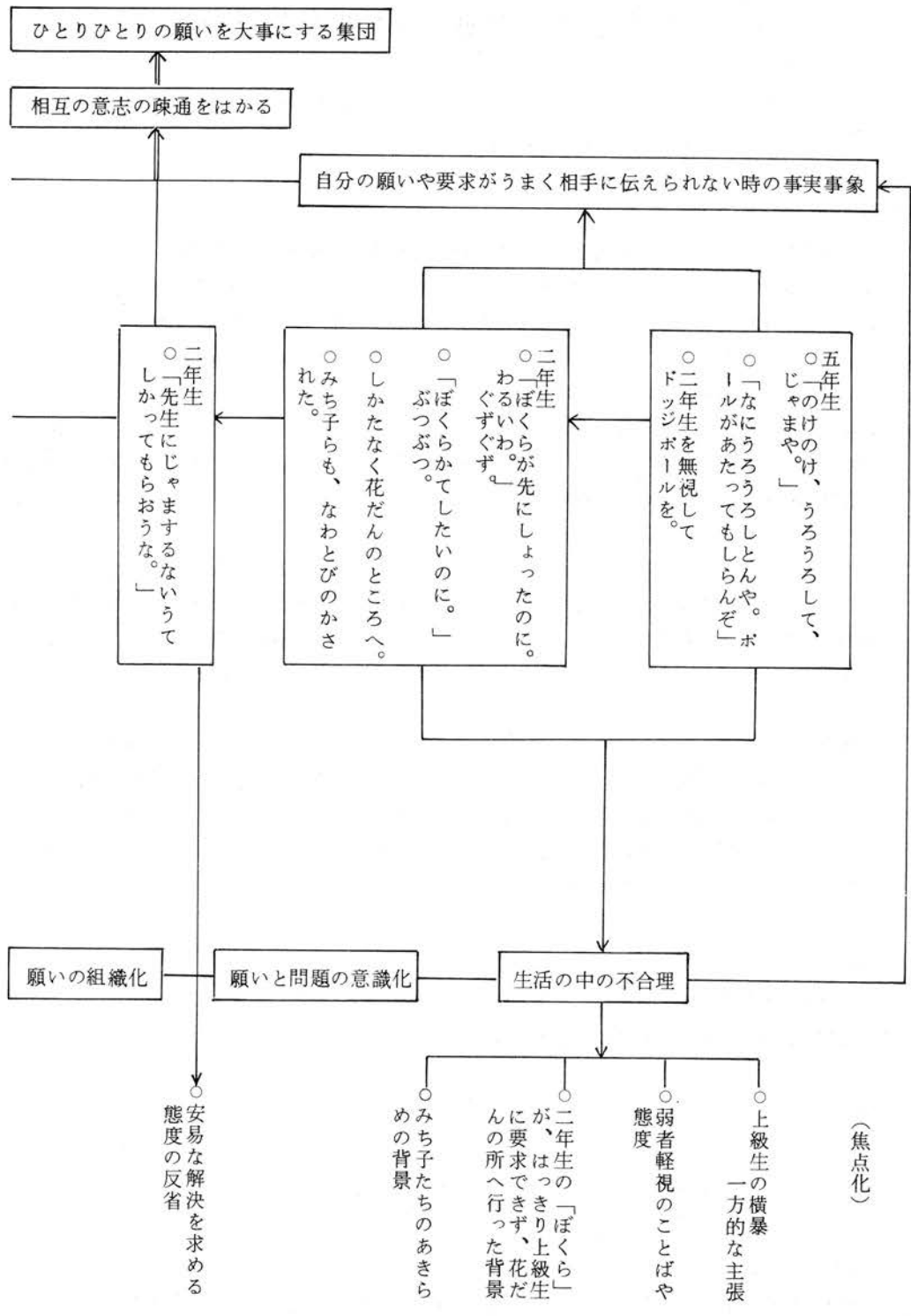
1. 主 題 願いを集団の場に出そう(これを読んでください)
2. 趣 旨
 - 今まで学級内でトラブルが生じた場合は、即時に口頭や日記で訴え、その問題については、朝の会や特設バズの時間に学級みんなで話し合っ、解決への糸口を見つけ出してきたので児童たちは、学級内の問題は個人で訴えることができる。しかし「鉄棒を横取りされた。」「ドッチボールの場所を取られた。」等、問題が学級内で解決できない場合は、ぶつぶつ言っている「しょうがない。」とあきらめたり、教師に訴えて頼ろうとしたり、教師に言えば解決してもらえるといた安易な態度が見られた。また上級生にあだ名を言われたり、たたかれたりしているのを見ても、「かなわない・こわい・どうしょうもない」と傍観しているだけで、自分たちで立ち向かおうとはしないし、またその方法も知らない。
 - 資料「これを読んでください」は、児童自身の身近に起こっている遊びのじゃまをされた問題なので、資料と体験とを一体化して考えることができ、自分の問題としてかかわっていくことができる。その上学級内だけでは解決できない問題が生じている現在、本資料は全校児童にかかわる問題の解決法を見つけるよう示唆されているのでこれを参考にし、自分たちで解決しようとする意欲をたかめ、実践化をはかるのに適している。また形式化しがちな児童会活動をひとりひとりの権利と幸福を守る上にも大事な会であることを知らせるのにもよい資料である。
 - 学級内、学年内だけでなく、上級生とかかわりのある問題でも、あきらめたり、傍観したりせずに学級全員で解決していこうとする態度を養い、問題を解決するためにはまず、自分たちの意志を明確に相手に伝え、そして相手の主張も正しく理解した上で合理的な方策をたて、解決への道すじを考えるようにさせたい。
3. 目 標
 - 日常生活の中で、さまざまな問題に直面した時、素朴な形でもひとりひとりの願いを学級内で組織化し要求にまで高め、集団の場に出すことが問題解決の糸口になることを知らせ、願いを集団の場に出し、確かめ合わせる。
4. 計 画 (2時間)
 - 第1時 上級生に遊びの場を取られた背景 (本時分)
 - 第2時 願いを要求に高めるてだてと問題解決の道すじ
5. 本時の目標
 - 生活の中の不合理を見ぬかせる。
 - 要求を満たすためには、不平を言うことより、自分の願いを相手に伝え、わかってもらうことの大事さに気づかせる。

6. 展 開

学 習 活 動	着 眼 点	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等
<p>1.生活の中の、学級内だけでは解決できない問題を見なおす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊び場でのこと ○その他 <p>2.学級の問題の背景を資料「これを読んでください」の20ページまでから探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○問題点を見ぬく。(個人) ○なぜ問題なのかを 考える。(全体) <ul style="list-style-type: none"> ・5年生の子たちの横暴な態度 ・2年生の子たちの消極的な態度 ○2年生の子たちがしょぼしょぼ花だんの方へ行ったのは、なぜかを追求する。 (グループ) ○自分たちのとってきた態度と考え合わせる。 <p>3.現状が続いた時の事を予想する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○くらしは楽しいだろうか。 ○どうすればよいのだろうか。 	<p>生活点検</p> <p>問題意識の 喚起</p> <p>実態と資料の 共通意識化</p> <p>強者の 身勝手さ</p> <p>弱者への差別</p> <p>不合理を生み 出す背景</p> <p>願いを要求と して出せない 弱さ</p> <p>みんなで立ち 向かおうとす る意欲</p>	<p>○いろいろな問題を事前に整理し、学級内だけでは解決できない問題だけを日記や絵から想起させ、本時学習の問題点にさせる。</p> <p>○生活の中の不合理と温存助長の原因を資料によって追求させる。</p> <p>○2年生の子を軽視したことばや、一方的な主張を押し通す5年生の子たちの態度に怒りを持たせ、2年生の子たちの願いが相手に通じないくやしさを自分の経験と比べ感じとらせる。</p> <p>○5年生の子の気持ち、2年生の子の気持ちから背景をおさえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>2年生 ・遊びたいが こわくていけない</p> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>(はっきり) 言わない</p> <p>↑ ↓</p> <p>(知らない)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>5年生 ・遊びたいので自分 たちのことだけし か考えていない。</p> </div> <p>○あきらめたり、だまっていることが不合理な事象を起こす土壌になっていたことに気づかせる。</p> <p>○要求が満たされず嫌な生活になることや、相互の意志の疎通のだじさ、解決への逼迫感を持たせる。</p>	<p>日記</p> <p>実態を 表す絵</p> <p>ともだち の本</p> <p>T P</p>

2年資料「これを読んでください」





第1・2学年難聴学級 同和学習指導案

指導者 橋本 ゆみ子

1. 主 題 励まし合って伸びていこう

2. 趣 旨

- 本学級は、1年生2名2年生5名の複式学級で、児童は全員聴力に障害を持っている。タンバリン・トライアングル・すずの音が聞き分けられる児童は2名で、全員音を聞き取る力は弱い。音楽は親学級で健聴児とともに学習しているが、歌うところがわからなくてもそれを聞くことができない児童、わかろうとする意欲の乏しい児童などがある。また、自分がハーモニカをふいている時に、変な目で見られたり笑われたりすると、その意味もわからずふき続ける児童、なんとなくふくのをやめてしまう児童、あとで先生に言う児童などさまざまであるが、それが障害を理解していない不当な差別であることに気づいている児童はいない。また、本学級の中でも、学習や遊びの場で「あほ」ということばが聞かれたり、のけものにしたりという場面が見られるが、それを正していこうとする児童はいない。
- ハーモニカをふいていると笑われたのでふくのをやめたY子、わからないことを進んで尋ねみんなといっしょに歌えるように努力しているN子の姿をうきぼりにした作文(教師作成)は、現象面だけをとらえて差別するのは誤りであり、不当な差別に気づき、それに負けることなく立ち向かっていかなければならないことに気づかせ、障害に負けることなく、自分の願いを出し、伸びるためには、支え合う集団が必要であることをわからせるのに適している。
- 難聴→音が聞こえにくい→ハーモニカがうまくふけない→笑われる、という自分たちが被差別の立場にあることに気づかせ、それに負けることなく、「みんなといっしょに歌いたい、ふきたい」という自分の願いを自覚させ、その願いを何らかの形でみんなの前に出していく力を育てる。また、伸びるためには、まわりの支えが必要であることを知らせ、お互いに励まし合って伸びていこうとする集団をつくる意欲を持たせる。

3. 目 標

- 自分の立場に気づき、自分の願いを自覚し、みんなの前に出す力を育てる。
- 能力を伸ばすために、お互いに励まし合って伸びていこうとする集団をつくる。

4. 計 画 (2時間)

- 第1時 「音楽の時間」……私の願いをさまたげるもの (本時分)
- 第2時 伸びる喜びと、より強く生きていくために支え合う集団

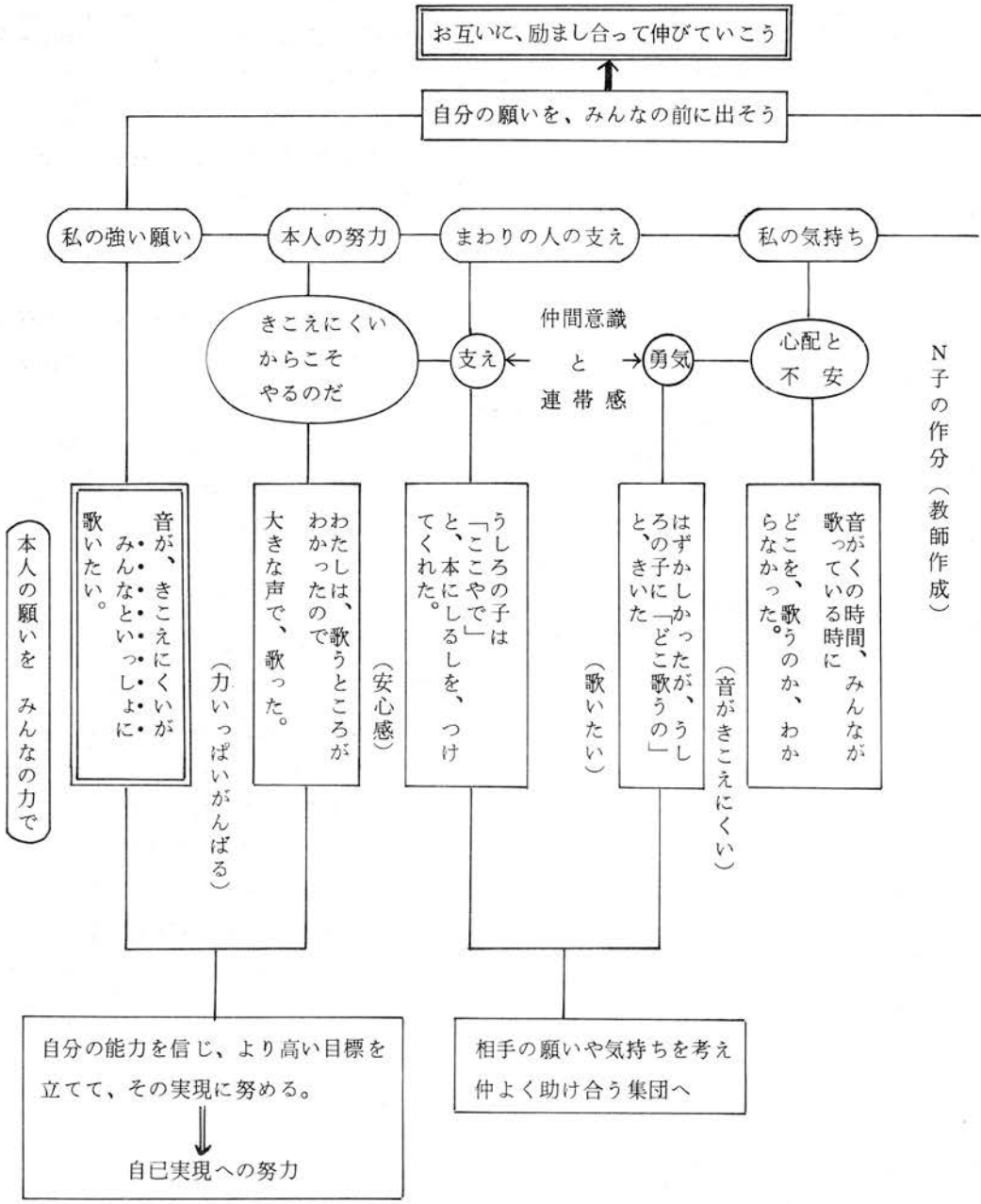
5. 本時の目標

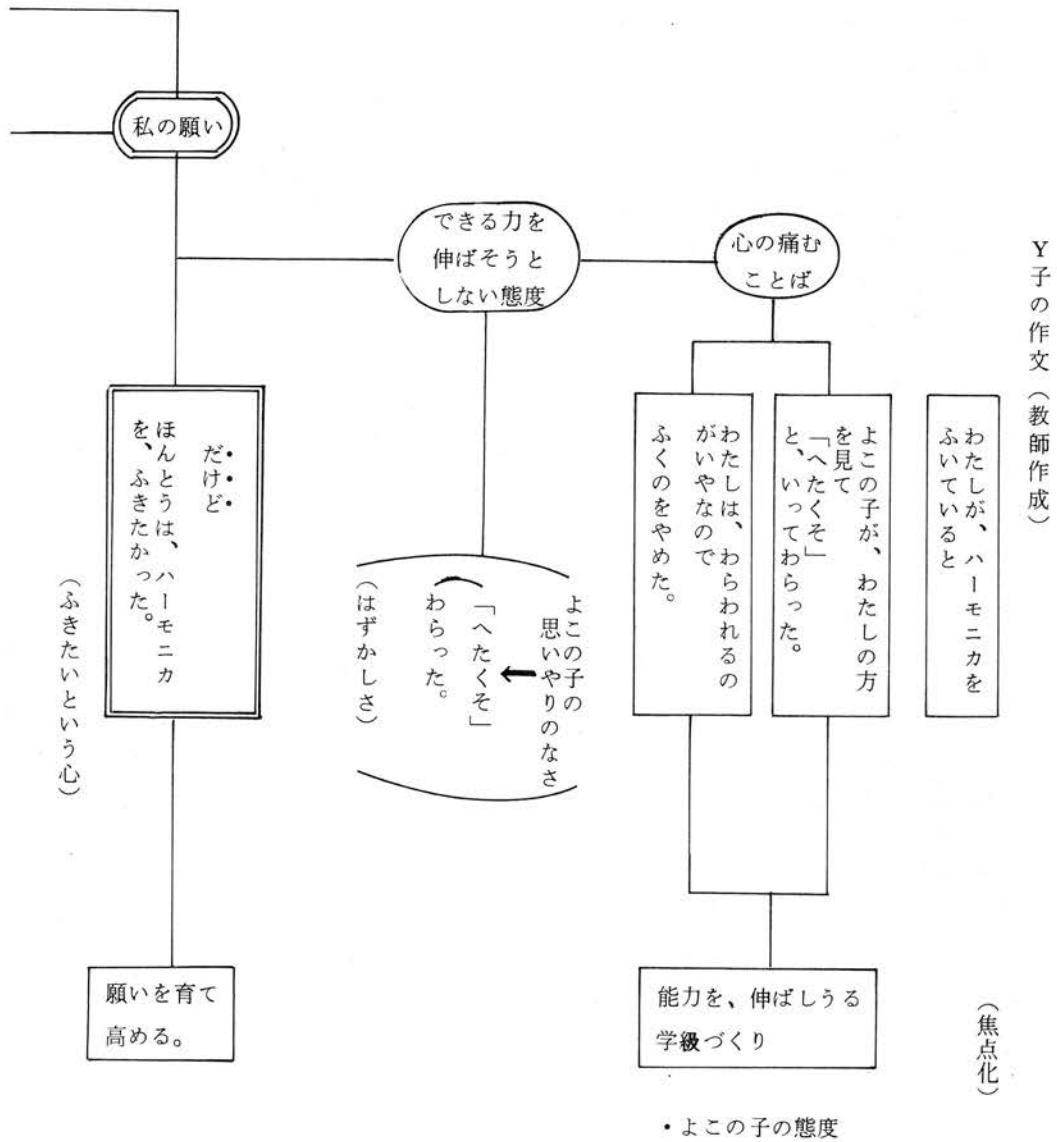
- 自分の障害を正しく自覚させ、差別に気づかせ、それに立ち向かっていく意欲を育てる。
- 自分の願いをみんなの前に出す力を育てる。

6. 展 開

学 習 活 動	着 眼 点	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等
<p>1.音楽の時間のことについて話し合う。(スライドを見ながら)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○困ったこと。 ○いやだったこと。 <p>2.「音楽の時間」の作文や絵を見て話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○よこの子の態度 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ハーモニカをふいていると ↓ 「へたくそ」といってわらった。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○なぜわらったのだろう。 ○わたしの態度 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>わらわれるのがいやなので ふくのをやめた</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○なぜふくのをやめたのだろう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ほんとうは、ハーモニカを ふきたかった。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○わたしは、どうするのがよいのだろうか。 <p>3.自分の生活をふりかえり、今後どうしたらよいかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話して笑われた時など 	<p>自分の生活を見つめる。</p> <p>問題の意識化</p> <p>障害者への不当な差別</p> <p>差別に負けているわたし</p> <p>差別に立ち向かう意欲</p> <p>自分の願いを出し、差別をはねのける</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○補聴器の調整をする。 ○はっきりと大きな声で発表するように話す。(特にK・A・M) ○友だちの話をよく聞くように話す。 ○困ったこと・いやなことなど言いにくいことでも言うように励ます。 ○作文を読んで、内容をつかませる。 H・N・Y……できるだけ自分の力で読みとらせる。 R・K・A・M……ことばを動作化したり、絵を見せながら、内容をつかませる。 ○ハーモニカがうまくふけない現象面だけをとらえた差別は、不当であることを気づかせる。 ○笑われるのがいやだからふくのをやめたことは、差別に負けていることに気づかせる。 ○くやしさを自分の願いを、みんなの前で話したり、作文に書いたりしていく力を育てる。 H・N・Y……自分の願いを自覚させ、みんなの前に願いを出していく力をつける。 R・K・A・M……自分の願いを自覚させ、何らかの形で表現させる。 ○自分の障害を正しく自覚し、不当な差別に立ち向かおうとする意欲を持たせる。 	<p>集団補聴器</p> <p>SL</p> <p>TP</p> <p>教師作成の作文</p> <p>TP</p> <p>絵</p>

資料 「音楽の時間」の作文(教師作成)





第3学年3組 社会科学学習指導案

指導者 谷 村 登志男

1. 小単元 火事をふせぐ

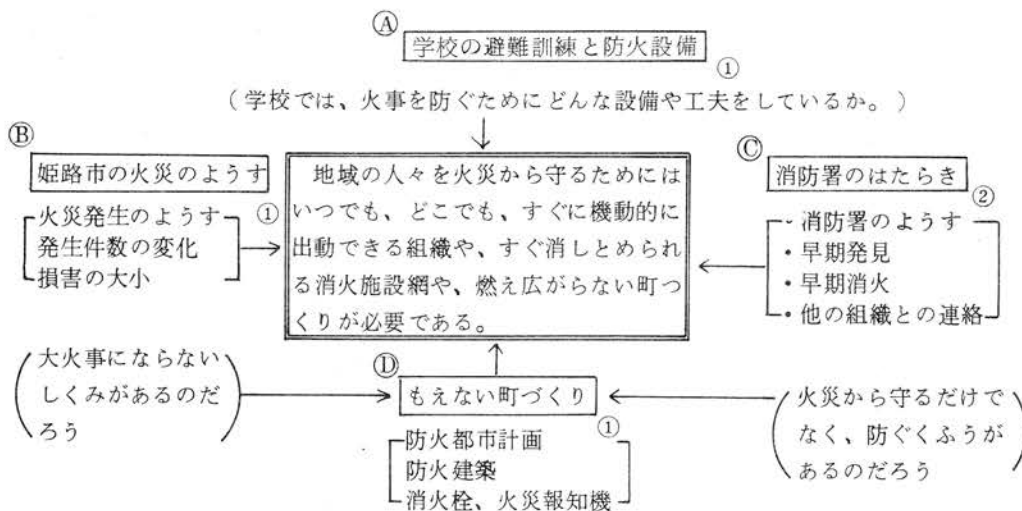
2. 趣 旨

- 本学級の児童は、前年度末避難訓練の一環として、運動場で行なわれた消防署の消火活動の実際を見聞しているが、赤い車・はしご車・放水等断片的なことしか記憶しておらず、消火活動をカッコいいもの、というようにしかとらえていない。また消火活動というと、消防署や消防団の人々のはたらきはすぐ気づくが、警察官・電気会社・水道局・ガス会社の人々のはたらきまでは気づかず、まだまだ興味本位にしか受けとめていない。
- そこで、姫路市という地域共同体の中で、いろいろの組織や施設が相互に関連をもちながら消火、防火活動が計画的になされていることに気づかせたい。
- 消防署の見学や、防火・消火活動についての資料や情報を収集活用して、姫路市の火災の現状を主体的に調べさせたい。

3. 目 標

- 人々を火災から守るためには、緊急連絡のしくみや消火施設網、燃え広がらない町づくりが必要であることを理解させる。
- 防火・消火活動に関するパンフレット、資料「ひめじ」等によって各種のグラフ、地図、絵図、写真を読みとったり、数量的観察ができるようにさせる。

4. 小単元の構造



5. 本時の目標 (D次第1時)

- 姫路市では、大きな火災がおこらないように、安全な町づくりの計画を進めようとしていることをみつけさせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
1.火事を消すだけに力を入れているのだろうか	○本時の学習問題をつかむ。 (全体) (大きな火事を防ぐために市ではどことなくふうをし) ているだろう。 (個人) ・家庭 ・学校 ・校区 身のまわりから考える。	○本時の学習問題をはっきりつかませる。 ○身のまわりの事実や経験から考えを出させる。	・SL	○本時の学習問題がはっきりつかめたか。
2.火事をふせぐため、町の人はどう考えているだろうか。	○もえない町づくりについて予想をたてる。(グループ) (せつびやしせつをととの) えているのにちがいない。 ・安全な町づくりについて話し合う。	○聞いたこと、調べたことをもとに予想させる。 ○大きな火事をふせぐための燃えない町づくりのくふうの必要性に気づかせる。		○事実や経験から予想が出せたか。
3.城南校区でたしかめてみよう。	○たしかめる。(全体) (家の人の話や、近所の建物のようす、近くでおきた火事の時のようすなど) から。 ・姫路市の燃えない町づくりの計画 一づくりかえられていく町なみー ・どこでも水がとれる消火栓 ・火災報知機の配置 ・火災予防週間の行事 ・その他	○資料「ひめじ」等を参考にたしかめさせる。 ○昨年の火災で類焼をまぬがれた家のつくりについて補説する。 ○火事のあと建てられた家、最近、近所で建てられた家についても想起させる。	・資料「ひめじ」 P 40 ・教科書 P 29 ・社TP 3-9	○資料をもとに話し合いができたか。
4.どんなことがわかったか。	○わかったことから考える。(全体) (城南校区だけではないようだ。)	○地域全体を考えた計画性が必要であることをみつけさせる。		○安全な町づくりのくふうがわかったか。 AN

第4学年2組 算数科学習指導案

指導者 小 暮 国 夫

1. 単 元 かわり方

2. 趣 旨

- 「かわり方」は変化を中心とした内容であり、変化には対応という見方がつきものである。対応とか、変化とかを中心に関数的な見方・考え方を育てることをねらっている。この見方・考え方は、低学年から、日常生活を通して、数量的にとらえていく中で総合的に漸次指導がなされてきた。

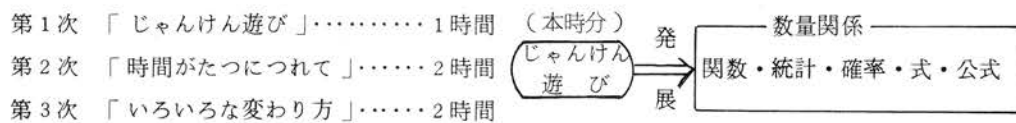
しかし、児童は「温度があがった」「影がのびた」とかの事象を、2つのものがともなって変化していくのだという2つ（時間と温度）・（時間と影）のものの結びつきとしての見方はまだできていない。

そこで、関数指導に入るまでに、数量的な観点から事象を処理していく経験を与えることが必要である。（じゃんけん遊び） その後に、実際に変化していくものを交互に与えて2量の対応するようすをつかんでいくようにしなければならない。また、具体的な問題と身近かな問題を機器を通して与え必要感がわくようにしむけ、具体的なものの積み重ねの上に立って、帰納的発見的に理解させるようにつとめて本校のめざす、自主・発見・創造といった学習性に近づけたい。

3. 目 標

- 数量的な観点にたつて、偶発的事象の結果をきまりにしたがって整理する経験をさせる。
- 時間がたつにつれて、自然に変化する事象を表やグラフに表わして、その表のようすを考察することができるようにする。
- ある量の変化にともなって、他の量が変化していくとき、その変化の特徴や規則性をとらえて考察できるようにする。

4. 計 画



5. 本時の目標

- じゃんけん遊びの記録を数量的な観点にたつてみることにより、数量的な関係や、その表現について考察する基礎となる経験をさせる。
- 友達と協力してゲームをして、その記録を正確に書かせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価																																																																
<p>じゃんけんの結果はどうでしたか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">2人で、じゃんけんゲームをしよう。</div> <p>記録用紙からどんなことがわかりましたか。</p>	<p>1.じゃんけんの結果を発表する。</p> <p>2.じゃんけん遊びのしかたを説明する。 ・男女でじゃんけんをして遊び方の範例を示す。</p> <p>3.じゃんけん遊びをする。 ・となりどうしでする。 ・勝負の結果を記録する。</p> <p>4.記録用紙をみながら、いろいろ考察する。 ・各自の得点を発表する。 ・かちまけを順に言う。 ・各自のたどったコースを線でつないでみる。 ・わかったことを発表する。 (グループ) ↓ (全体)</p> <p>5.本時のまとめをする。 ・類似事象を考察することについて話し合う。</p>	<p>勝ち数を発表させ、表に記入し、本時の学習に興味・関心をもたせる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>13</td><td>12</td><td>11</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td></td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>△</td><td>6</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>5</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>△</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>4</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>△</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td><td>3</td> </tr> <tr> <td>△</td><td>△</td><td>△</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td>2</td> </tr> <tr> <td>△</td><td></td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td> </tr> <tr> <td>△</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> </tr> </table> <p>まけ→右へ かち→左へ 図のような枠を示し、じゃんけん遊びのしかたを説明する。</p> <p>得点の合計がいつも13 ($x + y = 13$)がある規則性を発見させる。 つないだ線が対角線に対して対称であることに気づかす。 試合回数(z)は $z = 7 + y$ 最低試合数回数は7、最高試合数は13・・・等強要しない。</p> <p>問題を提示し、規則性から解くことを示唆し、特設バズの課題とする。</p>	13	12	11	10	9	8	7							○	△	6			△	△	△	△	△	5			△			○		4			△			○		3	△	△	△	○	○	○		2	△		○					1	△	○	○					0	<p>結果を記入する表</p> <p>方眼の TP</p> <p>記録用 TP</p> <p>厚紙でつくった六角形。</p>	<p>予習課題に全員とりくんできたか。</p> <p>じゃんけん遊びのルールを理解したか。</p> <p>結果が正しく記録できたか。</p> <p>自分の得点をみて、相手の得点かわるか。</p> <p>問題の意味が理解できたか。</p>
13	12	11	10	9	8	7																																																														
					○	△	6																																																													
		△	△	△	△	△	5																																																													
		△			○		4																																																													
		△			○		3																																																													
△	△	△	○	○	○		2																																																													
△		○					1																																																													
△	○	○					0																																																													

第4学年3組 国語科学習指導案

指導者 安 積 収

1. 題 材 　　ごんぎつね

2. 趣 旨

- 題材「ごんぎつね」は、筋の展開のおもしろさはもちろん、登場する人物の人間性や心の結び付きについて深く考えさせられる作品である。また、読み手を引きつける描写の美しさがあり、想像をはたかせながら楽しく読み浸らせ考えを深めさせていく教材である。
- 児童は、比較的長文の読書にもしたしんできている。しかし、まだ多数の児童は、あらすじや、事実の読みとり程度に終わり、登場人物の心情を場面の情景と結びつけ想像豊かに読みとるまでには至っていない。
- 学習活動の展開に当たっては、様子や気持ちが生き生きと表現されている部分を文章に即して読み味わったり、考えたりするような読み方を進め、児童を作品の中に読みひたらせていくように指導したい。

3. 目 標

- ごんの気持ちの動きをよく考えながら読むことができるようにさせる。
- 物語を読み味わって心情を豊かにさせる。
- 他の物語を進んで読むことができるようにさせる。

4. 計 画 (12時間)

第1次 感想を話し合い学習計画を立てる…………… 2時間

第2次 場面ごとに情景、登場人物の行動、心の動きを詳しく読みとり、考えたことについて話し合う。…………… 7時間

- ごんのくらしの様子は、どんなか。 (1)
- ごんは、どんないたずらをしたのか。 (1)
- 兵十のおっかあの死をどんなことから知ったのか。 (1)
- おっかあの死を知り、ごんは、どう思ったか。 (1)
- ごんは、いわしをなぜ兵十の家にはうりこんだのか。 (1)
- なぜ、ごんは、二人の後をつけていったのか。 (1)
- なぜ、兵十は、火なわじゅうをバタリと取り落としたのか。 (1) (本時分)

第3次 まとめ読みをし、感想を書き発表する…………… 2時間

第2次 練習と評価…………… 1時間

5. 本時の目標

- 「ごん、お前だったのか、いつもくりをくれたのは」といって火なわじゅうをバタリと取り落とした兵十の後悔の気持ちを読みとらせる。
- 人物の気持ちになって読みとらせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○ごんが「おれは、引きあわないな」といったのは、どうしてだろうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、兵十は、火なわじゆうをバタリと取り落としたか。</p> </div> <p>○死んでいくごんに、兵十は、どんなことをいいたいか。</p>	<p>○5の場面でのごんの気持ち思い起す。</p> <p>○6の場面を読む。</p> <p>○黙読してひとり調べをする。</p> <p>○読みとった結果について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う。 ・全体討議をする。 <p>○兵十の立場でごんに向かってつぶやき、ノートに記入する。</p>	<p>「へえ、こいつはつまらないな。」</p> <p>「おれが、……持っていつてやっているのに」</p> <p>○学習課題を確実に把握させる。</p> <p>「またいたずらをしに来たな」</p> <p>「兵十はびっくりして、ごんに目を落としました」</p> <p>「ごん、お前だったのか」</p> <p>「ごんは、ぐったり目をつぶったまま、うなずきました」</p> <p>○バタリと火なわじゆうを取り落としたあと兵十はどんな行動をし、その時、どんなつぶやきをするかをノートに書かせる。</p>	<p>課題表示</p>	<p>○ごんのいじらしさ・悔しさがわかっているか。</p> <p>○ノートに考えが記入できたか。</p> <p>○ごんの死によってしか、ごんを理解できなかった兵十の悲しみがわかったか。</p>

第3・4学年難聴学級 社会科学習指導案

指導者 小 谷 孝 司

1. 小 単 元 水害をふせぐ

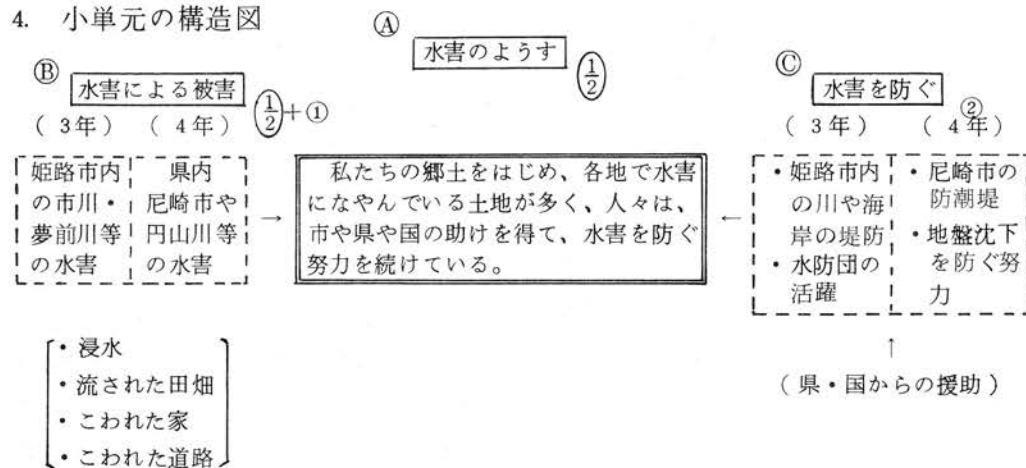
2. 趣 旨

- 本学級の児童はすべて高等度難聴児であり（3年6名、4年4名）、耳からの情報はいりにくく、また経験不足もあって、ごく一般的な社会事象についても理解は困難である。しかし水害については昨年の17号台風で経験しており、臨時休業になったことも含めて、増水した川の濁流や道にあふれた水などをよく覚えている。
- 本小単元は、3年では「すみよい市」4年では「きょうどを開く」の大單元の中の一つであり、どちらも私たちの住んでいる市あるいは県をよりよくしていくためのとりくみを取り扱ったものである。また水害は台風の来襲する時期に頻繁に起こっている問題であり、私たちの生活とも密接につながっている。そして、それを防ぐために様々な努力がなされている。
- そこで、昨年の17号台風の時の様子をとったスライド等の視覚教材を使って、耳からの情報はいりにくさをカバーするとともに、風水害ということイメージを持ってとらえさせたい。そして、その基盤の上に立って、水害を防ぐための様々な努力を理解させたい。

3. 目 標

- 水害の原因や被害状況をつかまえさせながら、地域の人々が市・県・国の助けを得て、水害を防ぐための努力をしていることを理解させる。
- 自分の体験や考えをみんなによくわかるように発表させる。

4. 小単元の構造図



5. 本時の目標 (A次第 $\frac{1}{2}$ 時、B次第 $\frac{1}{2}$ 時)

- 台風による水害の経験を出し合い、その原因や被害の状況をつかませる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○台風について話し合おう。</p> <p>○どんな被害を受けただろうか。</p> <p>○今までにどんな水害があっただろうか。</p> <p>○次時はどんな勉強をするか。</p>	<p>○補聴器の調整をする。</p> <p>○自分の経験を自由に発表する。 ・風 ・大雨 ・川の濁流 ・川のようになった道</p> <p>○被害の状況をわかる範囲で発表する。 ・道が川のようになった。 ・家に水がはいった。</p> <p>○3年は姫路市内で起こった水害を調べ、4年生は兵庫県内で起こった水害を調べる。 ・いつ(昭和〇〇年) ・どこで(〇〇市) (〇〇川) ・被害の状況</p> <p>○次時の計画を立てる。</p>	<p>○全員の名前を呼び、聞こえの状態を見る。</p> <p>○昨年の台風の時のスライドを見せ想起のきっかけにする。H児の近くの様子のスライドなので、Hに自由に落ちついて発表させたい。</p> <p>○水害と被害という言葉の意味を事実と照応させながらつかませる。</p> <p>○3年と4年とに分かれて作業をさせる。一個別指導</p> <p><3年> 資料ひめじを中心に調べさせる。 C. 資料の場所、書き方 F. } を再確認。書ける所 T. } まで会話でまとめる。 H. } A. } まとめ方を指導。 M. まちがいを直す程度。</p> <p><4年> ○資料兵庫・教科書を使って調べさせる。 I. } O. } 独力で調べさせる。 Y. } K. } まとめ方を指導。</p>	<p>・集団補聴器</p> <p>・S L</p> <p>・ひめじ</p> <p>・3年教科書</p> <p>・兵庫</p> <p>・4年教科書</p>	<p>○VOL、を正しく合わせたか。</p> <p>○自分の経験を少しでも話せたか。 T,H,C,F,K児</p> <p>○わかりやすく話せたか。 A,M,I,O,Y児</p> <p>○被害という観点でとらえられたか。</p> <p>○適切な資料をさがせたか。 } まとめてノートに書けたか。 } 正しくまとめられたか。 -独力で正しくまとめたか。</p> <p>}"</p> <p>} 正しくまとめられたか</p>

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 赤 垣 美智子

1. 題 材 からぐつの中の神様

2. 趣 旨

- 本題材は、茶の間でのおばあちゃんとマサエとの話し合いから、おばあちゃんの若いころの思い出話に移り、再び茶の間での話し合いにもどるという三つの場面から構成されている。主題にかかわるのは第2場面であり、おみつさんと大工さんの心のふれ合いを通して、ものの本当の価値ということ、また、本当の価値（真実）を見極めることの大切さが語られている。祖母の語りの中から人生の様々な相が考えさせられ読みごたえのある香り高い作品とあってよい。
- これまでに学習した「むねつまりなし」や「野ばら」などの物語文では、一文一文を大切にされた基本的な読みとり方を指導してきた。これによって児童たちは、作品の本質に触れたかなり深い味わい読みができるようになってきている。しかし、それを場面の情景や人物の心情と結びつけて読みとるにはまだまだ不なれで、いわゆる「物語に読みひたる」までには至っていない。
- 指導に当たっては、長文ではあるが、文の展開をたどらせながら会話文を手がかりにして、おみつさんの真心、大工さんの温かい心をじっくりと読みとらせたい。また、語りを生かした文体の特色に注意し、朗読の工夫をさせるなどしてじっくりと味わって読むように指導する。

3. 目 標

- ものの本当の価値は、外見にあるのではなくそれを作る人の真心にあることを読みとらせるとともに、わらぐつを作ったおみつさんと、その価値を見抜いた大工さんとの心のふれ合いが愛に結びついたことを読みとらせる。
- 人物の心の動きや場面の情景を思い浮かべながら読ませる。

4. 計 画 （11時間）

第1次 全文を通読して課題を設定する。……………2時間

第2次 「わらぐつの中の神様」を読む。……………5時間

○おばあさんが「わらぐつの中に神様がいなかった話」をするようになったのはなぜか。……(1)

○おみつさんは、なぜ、わらぐつを作り始めることになったか。……………(1)

○おみつさんの作ったわらぐつが、若い大工さんだけに買いとられていったのはなぜか…(1)

○若い大工さんが、おみつさんをおよめさんにしたいとまで思うようになったのはなぜか。（本時分）

○おみつさんは、大工さんのところへおよめにいって、どのように幸せにくらしたか。……(1)

第3次 作品の主題を追求し、「愛」や「幸せ」の本質を探る。……………2時間

第4次 練習と評価……………2時間

5. 本時の目標

- 「あのう、いつも買ってもらって、……」と言うおみつさんの控え目な誠実さと、「おれだって職人だから……」と言う大工さんの温かさ。この二人の心が結び合っていくことのうれしさや美しさを読みとらせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○わらぐつが初めて売れた時、おみつさんはどんな気持ちだったか。</p>	<p>1.学習課題を確認する。</p>	<p>○〈うれしくてうれしくて〉という気持ちを想起させ本時の学習課題をつかむ布石とする。</p> <p>○学習課題を書いた模造紙を貼布し、読ませることによって課題を確実に把握させる。</p>	<p>T P</p> <p>課題表示</p>	
<p>大工さんが、おみつさんをおよめさんにしたいとまで思うようになったのはなぜか。</p> <p>○おみつさんは、市のたびにわらぐつを買ってくれる大工さんをどう思ったか。</p> <p>○いつもわらぐつを買って行ったのはなぜか。</p> <p>○「おれのうちへ来てくれないか。そして……。」と言ったのはなぜか。</p>	<p>2.学習課題について考える。</p> <p>① 125 ページ 7 行目までを読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指名音読 ・黙読してひとり調べをする。 ・読みとった結果について話し合う。 <p>② 125 ページ 8 行目から 125 ページ 終わりまでを読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指名音読の後黙読する。 ・考えをノートに書く。 ・グループで話し合う。 ・全体で話し合う。 <p>3.学習範囲を朗読する。</p> <p>4.次時の学習課題を知る。</p>	<p>○ 125 ページ 7 行目までを一応の区切りとさせる。</p> <p>○ 叙述を手がかりにして書き込みをしたり線を引いたりして表象化させる。</p> <p>○ 会話文の外〈楽しみに〉〈不思議でも〉〈にっこりして〉〈たのしくて〉などの表現をおさえさせる。</p> <p>○ 〈いきなりしゃがみこんで〉〈白いほおが夕焼けのように赤く〉から二人のほのぼのとした心情をくみとらせたい。</p> <p>○ グループの話し合いにより個人の意見をいっそう深めさせる。</p> <p>○ おみつさん、大工さんの気持ちを考えながら朗読させる。</p> <p>○ 第 5 場面の展開を予想させる。</p>	<p>会話文表示</p>	<p>○細かい言葉に注意し、展開に即して読みとっているか。</p> <p>○もののねうちは、それを作る人の心にあることが読みとれるか。</p> <p>○大工さんがおみつさんの真心にひかれていったことがわかるか。</p>

精薄学級 生活単元学習指導案

指導者 中野 美保子

1. 大単元 秋のくだもの

2. 趣 旨

- 本学級は3年―3名、4年―1名、5年―2名、6年1名の計7名でIQ37～77（WI8 C知能検査）程度の児童が在籍している。そうじや係の仕事は自主的にできるが新しい場面での行動はできにくく、心を閉ざして言語もスムーズにいかなく全般に生活力は劣る。
- そこで生活に必要な人との対話のしかたや交通規則を守る事などの社会的行動を身につけさせたり、日常の事柄に関心を持ち細かく見つめる態度を養うために日常生活の経験をなまの形でとり上げたり、それを模倣して、楽しみながら意欲的に学習できるので本単元を設定した。
- 公園や店に行ってしたこと。見たことをもとにして略図を書いたり、買い物ごっこをしたり柿の木を作ったりする。このような学習や行動を通して日常の事柄を細かく見る目を育てたい。その上に、交通ルールや金銭の計算、店の人との対応のしかたなどに留意し、領域、各教科との関連を考えながら、ひとりひとりの子どもの能力等を考慮して指導したい。

3. 目 標

- 公園や店の見学を通して、あいさつのしかた、ことばづかい、交通規則などの社会的行動を身につけるとともに、日常の事柄に関心を持ち細かく見つめる態度を養う。
- 買い物ごっこをして、金銭の計算や場にふさわしいことばづかいなどを学習し、生活に必要な技術や態度を高める。

4. 計 画 （30時間）

第1次	学習計画を立てる。	1時間	
第2次	公園を見学する。	7時間	
第3次	店を見学し買い物ごっこをする。	8時間	
第4次	柿の木を作る。	8時間	第1時 柿とりをする。 第2時 柿とりゲームをする（本時分） 第3時 まとめ
第5次	柿とりをする。	3時間	
第6次	まとめ。	3時間	

5. 本時の目標

- きまりを守って、楽しく柿とりゲームをさせる。
- ゲームをすることによって50までの数に慣れさせる。

6. 展 開

発問と指示	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○柿取りして楽しかったことを話そう。</p> <p>○今、どの位置にいるか言おう。</p> <p>○後かたづけをしよう。</p>	<p>1.前時の柿取りについて話し合う。</p> <p>○柿を○こ取った。</p> <p>○高くて取りにくかった</p> <p>2.すごろく遊びにより柿取りゲームをする。</p> <p>○準備する。</p> <p>○きまりを覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンケンで勝った者から順に行く ・振った目の数だけ数字の順に進む ・柿のところで止まると実物の柿をとる。 <p>○ゲームをする。</p> <p>○進んだ数や取った柿を比べる。</p> <p>○取った柿を分ける</p> <p>3.後かたづけをする</p>	<p>○スライドを見せることにより楽しかった柿取りを思い出させ本時の学習意欲を高めさせる。</p> <p>○指示した物を取って来させる。</p> <p>○ゲームのきまりを理解しにくい児童にはその場その場で指導する。</p> <p>○ゲーム中、今どの位置にいるか、あといくつの目で柿かたえず言わせる。</p> <p>○取った柿を数えさせたり一列に並べさせたりして順位を言わせる。</p> <p>○少なかった友の気持ちを考えさせ同じように分けさせる。</p> <p>○今後遊びの中でゲームを適用させる。</p> <p>○同一のものを一まとめにして片づけさせる。</p>	<p>SL</p> <p>すごろく さいころ 柿</p> <p>貼付板</p>	<p>○柿取りした時のことが自分なりに言えたか。</p> <p>○約束を守ってゲームができたか。</p> <p>○ゲーム上の数字が何か言えたか 多い順に言えたか</p> <p>○分担した仕事ができただか</p>

過 程	時間数	指 導 内 容
1. 学習計画を立てる	1	
2. 公園を見学する 経験を話す 計画を立てる 公園に行く 公園に行くまでの略図 を書く	7 ① ① ③ ②	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見る。どんな物があり、どんな遊びをしたか話す。 ・スライドや地図を見る。時間や距離。 ・道の歩き方。遊具で遊ぶ。落葉、木の実を拾い数える。 ・目じるしになるもの、定木の使い方、線のひき方
3. 店を見学し買い物ごっこを する 店について話す 計画を立てる 店屋に行く 買い物ごっこをする	8 ① ② ② ③	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に行った経験を話す。色々な物が売っていた。 ・どこの店に行くか。何を持って行くのか話し合う。 ・交通ルールを守る。色々な果物を見る。果物を買う。お金の計算 ・店の人との対応のしかた(ごめんください ○○をください、ありがとう さようなら)物とお金の対応。
4. 柿の木を作る 柿について話す 計画を立てる 柿の木を作る	8 ① ② ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたことを話す。スライドを見る。実物を見に行く。 ・どんなものがあるか。(木 はさみ 画用紙など) ・準備する。葉の形や色はどうか。 ・作業(葉や実を作りつるす)
5. 柿とりをする 柿とりをする 柿とりゲームをする まとめ	3 ① ① ①	<ul style="list-style-type: none"> ・柿の切りつくりを見る。たねの形や数。 ・50までの数を数えたり書いたりする・同じ数に分ける。 ・手を洗う。皮のむき方、食べ方。
6. まとめ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習して楽しかったことを、話し絵に書く。

6. 展 開

発問と指示	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>○柿取りして楽しかったことを話そう。</p> <p>○今、どの位置にいるか言おう。</p> <p>○後かたづけをしよう。</p>	<p>1.前時の柿取りについて話し合う。</p> <p>○柿を○こ取った。</p> <p>○高く取りにくかった</p> <p>2.すごろく遊びにより柿取りゲームをする。</p> <p>○準備する。</p> <p>○きまりを覚える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャンケンで勝った者から順に行く ・振った目の数だけ数字の順に進む ・柿のところで止まると実物の柿をとる。 <p>○ゲームをする。</p> <p>○進んだ数や取った柿を比べる。</p> <p>○取った柿を分ける</p> <p>3.後かたづけをする</p>	<p>○スライドを見せることにより楽しかった柿取りを思い出させ本時の学習意欲を高めさせる。</p> <p>○指示した物を取って来させる。</p> <p>○ゲームのきまりを理解しにくい児童にはその場その場で指導する。</p> <p>○ゲーム中、今どの位置にいるか、あといくつの目で柿かたえず言わせる。</p> <p>○取った柿を数えさせたり一列に並べさせたりして順位を言わせる。</p> <p>○少なかった友の気持ちを考えさせ同じように分けさせる。</p> <p>○今後遊びの中でゲームを適用させる。</p> <p>○同一のものを一まとめにして片づけさせる。</p>	<p>SL</p> <p>すごろく さいころ 柿</p> <p>貼付板</p>	<p>○柿取りした時のことが自分なりに言えたか。</p> <p>○約束を守ってゲームができたか。</p> <p>○ゲーム上の数字が何か言えたか 多い順に言えたか</p> <p>○分担した仕事ができたか</p>

過 程	時間数	指 導 内 容
1. 学習計画を立てる	1	
2. 公園を見学する 経験話す 計画を立てる 公園に行く 公園に行くまでの略図を書く	7 ① ① ③ ②	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見る。どんな物があり、どんな遊びをしたか話す。 ・スライドや地図を見る。時間や距離。 ・道の歩き方。遊具で遊ぶ。落葉、木の実を拾い数える。 ・目じるしになるもの、定木の使い方、線のひき方
3. 店を見学し買い物ごっこをする 店について話す 計画を立てる 店屋に行く 買い物ごっこをする	8 ① ② ② ③	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物に行った経験を話す。色々な物が売っていた。 ・どこの店に行くか。何を持って行くのか話し合う。 ・交通ルールを守る。色々な果物を見る。果物を買う。お金の計算 ・店の人との対応のしかた（ごめんください ○○をください、ありがとう さようなら）物とお金の対応。
4. 柿の木を作る 柿について話す 計画を立てる 柿の木を作る	8 ① ② ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたことを話す。スライドを見る。実物を見に行く。 ・どんなものがあるか。（木 はさみ 画用紙など） ・準備する。葉の形や色はどうか。 ・作業（葉や実を作りつるす）
5. 柿とりをする 柿とりをする 柿とりゲームをする まとめ	3 ① ① ①	<ul style="list-style-type: none"> ・柿の切りつくりを見る。たねの形や数。 ・50までの数を数えたり書いたりする・同じ数に分ける。 ・手を洗う。皮のむき方、食べ方。
6. まとめ	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習して楽しかったことを、話し絵に書く。

単 元 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公園や店の見学を通して、あいさつのしかた、ことばづかい、交通規則などの社会的行動を身につけるとともに、日常の事柄に関心を持ち細かく見つめる態度を養う。 ○ 買い物ごっこをして、金銭の計算や場にふさわしいことばづかいなどを学習し、生活に必要な技能や態度を高める。
---------	---

領 域	ね ら い
生 活	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルールを守って歩く。(信号機 横断歩道 歩道 地下道) ・地図の見方を知る。 略図を書き色をぬる。 ・公共物を正しく使い きまりを守って遊ぶ。 ・木の葉の色や形 木の実の色や形を観察する。 ・果物の皮をナイフでむく。 手を洗ってから食べる。
言 語	<ul style="list-style-type: none"> ・おわりまで はっきり話す。(……しました。 です。 ます。) ・応対する。(ごめんください ○○をください いくらですか ありがとうございますようなら) ・公園や店 柿について知っていることを話す。 果物の名まえを書く。 ・先生の顔 友だちの顔を見て話を聞く。
数 量	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭の計算をする。 お金と物との対応。 なかま分けをする。 ・50までの数を数えたり書いたりする。 ・整数で分けられない物を分ける。
情 操	<ul style="list-style-type: none"> ・物の形になるようにはさみで切ったり 手でちぎったりする ・果物に似た色 秋の葉っぱに似た色を出す。 ・絵の具の混ぜ方を知り、適した太さの筆を使う。 ・すみまできちんとぬる。 葉や実を作る。

第6学年1組 理科学習指導案

指導者 堀江 広実

1. 単元 物が燃えるときの変化

2. 趣旨

- 本単元では物が燃える時には、まわりの空気が変化するとともに燃えるものの質が変化することや、その時多くの熱や光が出ることを理解させることがねらいである。
- 児童は、物が燃える現象については日常生活や5年の学習でかなり多く経験している。また事前調査によると、物が燃えると空気中の酸素が使われ二酸化炭素ができることはほとんどの児童が理解している。(38/42人中) しかし、燃える物の状態の変化についての認識はあいまいで、ほとんどの児童がろうそくのしんや液体が燃えていると考えている。(35/42人中)
- 指導にあたっては、ろうそく・アルコールの炎を分析的に観察させ部分によって、色・明るさ・温度の違うこと、炎のできるわけ・ろうそくの炎のほうがアルコールの炎よりも明るいわけを追究する過程で、燃える物の行方や変化を追い、物質の燃焼にともなう物質変化と発熱反応をとらえさせるようにしたい。また、物質変化をともなわない電気・摩擦による発熱も扱いその違いなどもとらえさせるようにする。

3. 目標

- ① ろうやアルコールが燃えるときには、それらが気体になって燃えることに気づかせる。
- ② ろうやアルコールの炎の発熱・発光やすすの出方の違いに気づかせる。
- ③ 木を蒸し焼きすると炭素が残り、これを燃やしても炎は出ないことをとらえさせる。
- ④ 発熱線などの発熱と燃焼による発熱との違いに気づかせる。

4. 指導計画 (10時間)

- 第1次 学習計画をたてる……………1時間
- 第2次 ろうそくやアルコールの燃え方……………2時間
- 第3次 炎の明るさと温度……………2時間
 - 第1時 ろうの炎の明るさと温度……………(本時分)
 - 第2時 アルコールとろうの炎の明るさと温度
- 第4次 木の燃え方……………2時間
- 第5次 発熱する時の変化……………2時間
- 第6次 まとめと評価……………1時間

5. 本時の目標

- ろうそくの炎は、部分によって温度が違うことを金網などを熱することによって見つけさせ炎は部分によって燃焼のしかたに違いのあることをとらえさせる。
- 炎や現象を分析的に観察する態度を養う。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
○きょう学習することは	1. 炎を観察する。 ・炎には明るい部分と暗い部分がある。 2. 学習のしおりをもとに学習課題を確認する。	○ 炎には明るい部分と暗い部分があることを観察させておく。	・ローソクとマッチ ・ローソク立て ・すいがら入れ ・TP	○炎の観察を通し本時の学習課題がつかめたか。
ろうそくの炎の色は部分によって違いがあるのはなぜだろう。				
○部分によって色がちがうわけを考えよう。	3. 予想をたてる。(個人) ・温度が違う。(全体) ・明るいところが高温だ。 ・外側は空気にふれるので温度が高い。 4. 実験方法を話し合う。 ・わりばしをこがす。 ・ビニール線のとけ方で。 ・金網の赤熱のし方で。 5. 実験する → 記録する。 6. 結果を話し合う。 ・一番外の透明なところが一番高温である。	○ 5年の学習、酸素が使われていることに眼をつけて考えさせる。 ○ 条件統一しなければならぬ事は何か充分に確認させ能率よく実験させる。 ○ 変化のようすを何回かくり返し確かめさせる。	・TP10 ・わりばし ・ビニール線 ・金網	○課題に対して自分なりの予想がたてられたか。 ○的確に観察しデータが集められたか。
○なぜ外側が高温なのか。				
○まとめよう。	炎の外側は空気によくふれるので、よく燃え温度が最も高い。(個人) ↓ (グループ) ↓ (全体)	○ 実験結果をもとにして個人の考えをノートに記入させ、話し合わせる。		○実験結果と既習事項(酸素と二酸化炭素)とを結びつけた考察ができたか。
○次時の学習課題について				
アルコールランプの炎についても調べてみよう。				

第6学年2組 社会科学習指導案

指導者 永 井 守

1. 小単元 大正の世の中

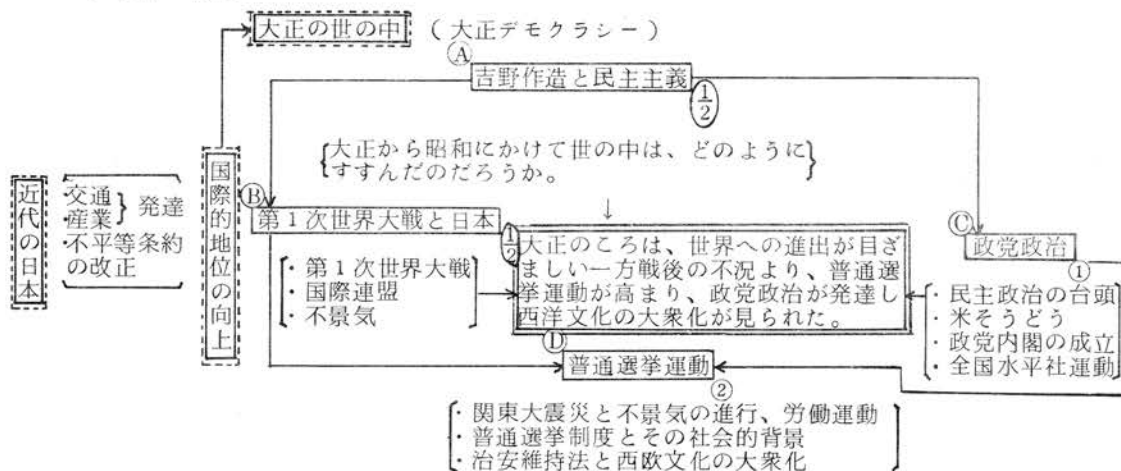
2. 趣 旨

- 前単元「近代の日本」で我が国は、交通・産業の発達・不平等条約改正などにより、日本の国際的地位が向上してきたことを学習した。つぎに、第1次大戦をへて、国際的な視野の中に我が国は、様々な試練を経験する中で民衆の政治への希求を握ませたい。これが、大正デモクラシーである。
- そこで、本単元では、第1次大戦の日本への影響、即ち、工業化と経済不況、労働運動の台頭を中核に、国内政治における政党内閣の成立、普通選挙制度の確立をとりあげたい。そしてゆれ動く世界情勢の中で、民衆は、自分たちの暮らしを守るために、団結していったことを、学習させる。これ以後は、不景気、天災、政党の墮落から、政治経済が不安定となり、軍部が介入していく経過をたどる事へと、学習は発展していく。
- 本小単元を展開するにあたっては、AVを多角的に取り入れ、バズ学習を基本に、ひとりひとりに、確かな学習を保障する方向で、仕組んでいきたい。

3. 目 標

- 第1次世界大戦によって、我が国は、国際的地位を高め、国内産業や経済の上で、大きな変化のあったことをとらえ、政党内閣が生まれ、普通選挙運動が盛んになるなど、民主主義の考えが、高まった社会的背景について考える。

4. 小単元の構造



5. 本時の目標 (D次第1時)

- 第1次世界大戦後、国内では民主主義運動がさかんになり、自分たちの暮らしを守るため、普通選挙法が成立した。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
1. 選挙権は、 どのように ひろがって きたか。	○ひろがる選挙権の表を見 て考える。(全体) ・昭和3年・昭和21年 急にふえている。 ・どうしてふえたか。	○政党政治は人々の生活を よくする目的で作られた こと。	・「ひろ がる選 挙権」 のグラフ ・社TP 6-6	○政党政治の 学習が想起 されたか。
2. 普選とは、 どんなもの だろう。	○普通選挙制度について調 べる。(全体) ・普選法の成立過程と意 味。	○1925年、25才以上の男 子全員である。	・社TP 6-6	
3. どうして、 こんな大き な運動が行 なわれたの だろう。	○なぜ普通選挙運動がおこ ったか考える。 ・考えていく視点につい て話し合う。(個人・ グループ) ・国民のくらしから ・政治のしくみ、仕方 から ・進んだ考えを持った人	○普選運動の背景を調べる ことを本時の学習問題と してつかませる。 ○児童の社会科資料集P51 ④、⑤のグラフや既習の 民本主義の発展や政党政 治の学習をあしかりに 考えさせる。 ○視点にしたがってノート に意見をまとめさせる。	・AN ・社TP 6-6 ・教科書 P153 } P158 ・資料集 P51 } P52	○本時の学習 問題がつか めたか。 ○考えていく 予想の視点 が立てられ たか。
4. 民主主義の 政治を願う 人々の生活 のようすを 考えよう。	○資料や例文を見て、普選 運動がおこなわれたわけ を調べる。(グループ) ・「物価と賃金」「米の ねだん」のグラフ ・元老政治、制限選挙 ・民主的考え方による学 者、学生の指導	○第1次大戦をへて人々の 考え方や、くらしの上での 苦しさを克服したいという 人々の願いがあったことを、 具体的にわからせたい。 ○関東大震災と不景気の進行	・社TP 6-6 ・SL ・普選要 求のS L(VT)	
5. 普選運動は これから、 どう進んで いくだろう。		○労働者のくらしや他の条 件から運動の様子を映写 し、おこったわけについ てまとめ、今後の経過を考 えさせる。	・メーデ ーの写 真 ・AN	○普選運動の 背景がつか めたか。
6. 次の時間の 学習を考え よう。	○治安維持法、西洋文化の 大衆化など次時の学習の めあてをつかむ。(全体)	○戦争への道の布石として の治安維持法やラジオな ど西欧化のようすにふれ る。	・社TP 6-6 ・SL	

第 2 校 時

第1学年2組 国語科学習指導案

指導者 富田てる子

1. 題 材 たぬきの糸車

2. 趣 旨

- この題材は、伊豆地方の風土の中で生まれ語り継がれた民話であり、どこかのんびりとした中にも明るいやさしさが感じられる。筋の展開は1年生なりにつかみやすく、場面の移り変わりを読みとりながら、好きなところや内容のおもしろさをとらえ、場面の様子を豊かに想像するのに適した教材である。
- この頃の児童は、童話その他昔話を読んだり聞いたりするのが好きである。しかし情報化社会に於けるテレビその他の影響をうけて、部分的な表現のおもしろさにひかれやすく、じっくりと考え文章に即して豊かに正確に読みとるということができにくい。
- 児童の実態から考え、好きな所や、おもしろい所をたくさん見つけ出させ、これ迄の読書経験をを通して、読書のおもしろさを味わわせてやりたい。またさし絵や動作化により、たぬきやおかみさんの気持ちをくみとらせ、個人思考や話し合いの学習をとり入れることにより、更に読みを深める指導をする。

3. 目 標

- たぬきをめぐって、その行動からおかみさんのたぬきに対する心情を読みとり、たぬきとおかみさんの心のつながりをとらえさせる。
- 美しい絵画的場面を想像したり話したりさせる。

4. 計 画 (10時間)

第1次 全文を通読し、感想を書いて話し合う。…………… 2時間

第2次 場面ごとのようすを読みとる。…………… 6時間

・きこりは、なぜわなをしかけたのだろう。……………(1)

・どうしておかみさんは、ふき出しそうになったのだろう。……………(1)

・おかみさんの気持ちの変化はどんなことばでわかるだろう。……………(1)

・冬の間たぬきはどうしていたのだろう。……………(1)

・おかみさんは、どうして「あっ」とおどろいたのだろう。……………(1)…(本時分)

・たぬきはなにがうれしいのだろう。……………(1)

第3次 学習のまとめをし、他の民話を読む。…………… 2時間

5. 本時の目標

- おかみさんのおどろいている様子や、そのわけを考え、たぬきが糸をつむぐ場面を想像することを通して読み深めさせる。
- 進んで話を聞いたり読んだりさせる。
- おかみさんの気持ちや、たぬきの気持ちを想像し、さし絵や動作化を通してできごとをくわしく読みとらせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
<p>○前時はどんな話でしたか</p>	<p>1.冬の間のたぬきのようすを想起する。</p>	<p>○だれもない部屋で糸車をまわし、やっと糸がつむげた様子を想起させる。</p>	<p>冬の間のさし絵。</p>	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>山おくのこやにかえってきたおかみさんは、とをあけたとき、どうして「あっ」とおどろいたのでしょ。</p> </div>		<p>○課題を貼布し、学習課題を確実に把握させるためにノートに書かせる。</p>	<p>課題表示</p>	<p>○課題に対する関心を示したか。</p>
<p>○おかみさんは、山へかえってきて、なぜおどろいたのでしょ。</p>	<p>2.学習課題を読み、ノートに書く。</p> <p>3.おかみさんがおどろいているようすを想像し、そのわけを文中からさがす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読する。 ・グループで話し合う。 ・自由に話し合う。 ・本に線を入れる。 	<p>○はっきり、ていねいに書かせる。</p> <p>○だいじなことをおさえさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糸のたばが山のように ・まきかけた糸まで ・糸車のまわる音 ・じょうずな手つき <p>○確認させるために、だいじなことに線を入れさせる。</p>	<p>T P 動作化 たぬきの面 糸車</p>	<p>○気持ちがわかるような読みができるか。</p> <p>○人物になりきって動作化ができるか。</p>
<p>○なぜたぬきは糸をつむいだりしたのでしょ。</p>	<p>4.わなにかかった場面を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読する。 ・ノートに書く。 ・話し合う。 <p>5.本時学習部分の朗読を聞く。</p> <p>6.次時の学習を知る。</p>	<p>○しかけたわなにかかったたぬきをにがしてやった、おかみさんの心情を考えさせる。</p> <p>○おかみさんの、たぬきに対する気持ちの変化を考えると、たぬきの行動をおさえさせる。</p> <p>○おかみさんに対するたぬきの気持ちをくみとらせながら聞かせる。</p> <p>○たぬきの心情を予想させる。</p>		<p>○たぬきに対する気持ちの変化が読みとれるか。</p>

第1学年3組 社会科学習指導案

指導者 常 隆 友 子

1. 小単元 わたしのうちのいちにち

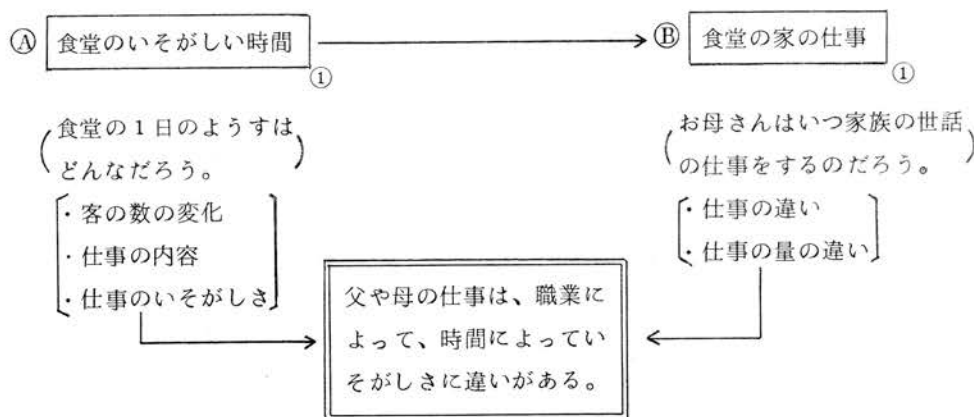
2. 趣 旨

- 本校は、市の中心に位置し、商店街や歓楽街を校区に持つところから、児童の家庭の職業をみても、商店経営、飲食店、その他サービス業関係に従事する家が多い。
2学期も後半になり、児童たちの交友関係や遊びの生活圏はずい分広がってきて、今まで改めて見ようとはしなかった自分の家庭に対する関心の高まりと共に、友だちの家庭に対する関心も持ち始めてきている。
- そこで、本単元では、自分の家で営業する仕事の範例として、日頃よく目にしたり、行った経験も多い食堂をとりあげ、時間によって客の数や仕事のいそがしさ、仕事の内容に違いがあることに気づかせようとするもので、前単元と同じく父や母の仕事を1日の時間の流れの中でとらえさせるものである。
- ここでは、朝から夜までの食堂のようすを時間をおって、具体的に観察させ、みんなの観察を基に話し合いをすすめ、視聴覚機器を効果的に活用する中で、ふだんは利用する側に立って見ている食堂の仕事の時間によるいそがしさの違いに気づくように指導したい。

3. 目 標

- 食堂を営む家の父や母の仕事を1日の時間の流れと対比しながらとらえ、その中で働く人の仕事の分担のしかたや時間によって仕事の内容やいそがしさに違いのあることに気づかせる。
- 食堂の仕事や働いているようすを観察し、それに基づいて話し合わせる。

4. 小単元の構造



5. 本時の目標 (A次第1時)

- 食堂では、時間によってお客の数が変化し、仕事の内容やいそがしさなどにも違いがあることに気づかせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
1. 観察して思ったことを話し合おう。	○食堂のようすを観察して気がついたり感じたことを話し合う。	○初めて見て知ったこと、驚いたこと等を出させる。 ○自分の家の食事の時のようすと比較させる。		
2. 食堂は、いつも大勢のお客が居るのだろうか。	○お客が大勢来るのはいつか話し合う。	○予想を立てさせる。 ○朝、昼、夕方、夜と分け昼や夕方に多いことに気づかせる。 ○日によっても違う。 ○お客の数を絵グラフに表す。	・ S L ・ グラフ	○客の数の変化や仕事のいそがしい時がわかったか。
3. どんな人が食べに来るのだろうか。	○食堂に来るお客について考える。	○自分の経験やお客の服装などから考えさせる。		
4. お客の居ない時、店の人はどうしているのだろうか。	○お客の居ない時の店の仕事について話し合う。 ・ 店の人の食事 ・ 休憩 ・ あとかたづけや準備	○お客に料理を出すためにはいろいろな準備の仕事が必要なことをつかませる。		
5. ほかの店はどうかだろう。	○はるこさんの家の1日と比べてみる。	○教科書を参考にして調べさせる。	・ T P 1 - 4	○食堂の1日のようすがつかめたか
6. 食堂を開いている友だちの家のようすを聞いてみよう。	○友だちの家のようすを聞く。 ・ 店がおわってからの仕事 ・ お父さんの苦労	○観察するだけではわからない仕事や苦労の一端を知らせる。	・ 作文 ・ 録音	
7. 次時の学習を考えよう。	○次時の学習のめあてをつかむ。	○主としてお母さんの仕事に目を向けさせる。		

第2学年3組 特設バス学習指導案

指導者 山本百合子

1. 内 容 生活バスと復習バス(国語)

2. 趣 旨

- 学級での係活動や清掃活動等、役割分担が多くなるにつれ、学校生活や家庭学習にも慣れ始め、ややもすると生活習慣や集団のきまりが乱れやすい。

そこで、日々おはようバスで、朝の生活点検をし、一日のめあてを決めて学校生活をスタートさせ、さようならバスの生活点検の中で、学校での一日のくらしをグループで反省し、点検することによって、明日への足がかりとして生活習慣や集団のきまりを身につけ、学校生活をより正しくしようとする態度を養いたい。

- 学習面では、文を書くことにもだいぶ慣れてきて、あった事を順序よく整理して書いたりすることができるようになってきている。しかし、だれがどうした式の単純な文しか作れなかったり、単に事実の羅列だけであったり、又、具体的事実とその時の気持ちとの間にずれがあったりして、読み手にその時のようすを十分に伝えることのできない児童も多い。

そこで、こくごの「ようすがよくわかるようにくわしく書きましょう」の単元の復習・発展として、全員が共通に経験した出き事を題材に簡単な文を与え、その時のようすを、した事・見た事・聞いた事を思い出したり、会話文を使ったりして、よくわかるようにできるだけくわしく書くことを指導したい。又、グループで意見交換することによって、学習への意欲を高め、助け合って学習しようとする態度を育てたい。

3. 目 標

○ 生活バス

学校生活での集団の一員として、一日のめあてや問題の起こりやすい項目について、点検したり反省をし、よりよい生活態度を養う。

○ 復習バス

した事、見た事、聞いた事を思い出したり、会話文を使ったりして、くわしく書くことができるようにする前時の復習、発展として、簡単な文をようすがよくわかるようにくわしく書くことができ、予習課題としての「おそろしい大雨」で、くわしく書いてあるところを見つけることへのつなぎとさせる。

4. 展 開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
生活バズ 点検 ↓ 話し合 い	1. 一日の生活の反省をし、点 検カードに記入する。 ○ グループで話し合う。 2. 全体で問題になることにつ いては、みんなで話し合う	○ しおりに記入しながら、 自己点検させる。 ○ 声の大きさや話型に気を つけさせる。 ○ よい事があれば、ほめて 意欲づけさせる。	よい子の しおり	○ 自分の反省 が言えたか ○ 話し合いの 態度はよか ったか。
学習バズ 復習 ↓ 文を綴 る ↓ 推考す る ↓ 予習課 題へ発 展	1. 教科書の「くらべてみまし よう」の復習をする。 2. ある場面を見て、簡単な文 に、ようすがよくわかるよ うに書き足す。 ○ グループで考えを出し合う ○ 発表して他の班と比べる 3. 予習課題と方法を知る	○ ようすがくわしく書かれ ている部分を確認させる ○ 国語教材の発展として練 習させる。 ○ 話し合いの中で推考させ る。 ○ 一つの例として取り上げ、 多様な考えを認めてやる。 ○ 教科書の「おそろしい大 雨」で、くわしく書かれ ている部分に線を引いて くることを予告する。	T U	○ 自分なりに 文をくわし くできたか ○ グループの 話し合いに 参加してい るか。 ○ 予習課題と 方法がわか ったか。

言語障害学級 言語訓練（吃音）指導案

指導者 三木やすこ

1. 単元 かいもの

2. 単元設定の理由

	Y児 男 2年 S44.6.14生	K児 男 1年 S46.2.10生
生育	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠、出産及びその周辺に異常はなくその後も別に大きな病気をせず育つ 3才児検診の時、ことば数が少なく心配なので相談をしたが異常がないとのことであった 4才頃母親が吃音に気づき心配な日々を重ねたが手だてもなく今日に至る。 家族や近身に吃音の者はいない。 ことばの始めや途中で連発性や難発性 	<ul style="list-style-type: none"> 妊娠、出産及びその周辺に異常はなくその後も別に大きな病気をせず育つ 5才半頃母親が吃音に気づき子どもの発語にいろいろと注意をした。後、教育研究所へ通い指導を受けた。 構音障害もあって話しことばがはっきりせず内容がわかりにくい 家族や近身に言語障害の者はいない ことばの始めに軽い連発性の吃音及
話しことばの現状	<p>の吃音が見られるが声は大きく明るい</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が吃音であることをよく知っていて、少し気にしている。 	<p>び「さ、ざ、ら」行者に構音障害が見られる。全般に小声で不明瞭である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の話しことばについては気にするまでに至っていない
主訴	吃音を矯正、治療、克服すること	吃音を矯正し言語を明瞭にすること

- 上記の児童は9月に初めて顔を合わせた。Y児は吃音、K児は吃音と構音障害が見られるが両児童ともそれによる二次的障害は今のところないようである。知能や社会性も年令相応の発達を見せている。言語面でも習得している語い数、読み書きの能力、ことば使い等も同年令の子と比べて劣っていない。日常会話ではあまりどもらないが緊張した場面での会話、発言、朗読等ではどもる数が多い、K児は第一性吃音、Y児は第二性吃音への移行期にある。
- 両児童とも年令が小さいので吃音そのものを取りだして呼吸法や発声法の指導や訓練は避けたい。ごく自然のうちに「必然的に話す」いろいろな場を設定して、その中で「より多くを話させる」ように運び「どもることへの心配」よりも「話すことへの自信」を見いださせたい。本単元は児童になじみもあり抵抗も少なく上記の趣旨がうまく叶えられる。相互に役を交替して話し合い、問答し合い読み合いする中で発語への自信をつけさせたい。

3. 目標

- 「かいもの」を通していろいろな言語学習の場を設定し、両児童の自主性、自発語を尊重しながら「どもってもごまかさないで最後まで話す」「どもっても言いたいことは遠慮せずに言う」態度を身につけ終局は「自己の吃音を意識せずに話ができる」までに自己解放をし吃音に屈しない強い精神力を育てる
- 言語学習は家庭での親子関係、言語環境、吃音に対する考えや態度の適正化が必要なので親との話し合いの機会と場をもって効果を上げるように努力する。

4. 計 画 13時間(9月~12月)

- 第1次 かいもの学習の計画を立て準備をする..... 2時間
 第2次 かいものをする..... 5時間
 ○やおやの歌 やおやの品物..... (2)
 ○やおやへ買い物に行く..... (1)
 ○やおやと郵便局へ買い物に行く..... (1)
 ○やおやと文房具店へ買い物に行き帰る途中で大雨にあう..... (1)本時分
 第3次 本屋で本を買いそれを読んだり内容を説明したり感想を話したりする..... 5時間
 第4次 はなし方やことばの明瞭さについて反省する..... 1時間

5. 本時の目標

- 相手のことばを復唱し急がずにていねいに話す。
- どもっても小声でごまかしたりせずによく聞こえる音量で最後まで話す。
- 相手の顔を見て最後までよく聞いてから次の行動をする。

6. 展 開

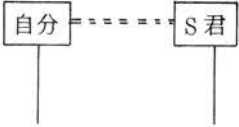
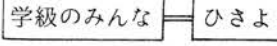
学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
1. 「やおやの歌」を歌う。 ○店の品物の名前をいう。	○手拍子を取り母親と一緒に ○大きな声で、はっきりと	品物模型	区切ってはっきり言えたか
2. 本時の学習内容や方法及び目標を知る 相手の顔を見て、最後まではっきりと話したり聞いたりする			大きな声で最後まで話したか
3. 買い物ごっこをする。 ・母親の注文を聞く、メモ、復唱 ・やおやと文房具店で買い物をする(店員、客は児童相互で)	○既習のやおやでの会話が正しくできるよう導く、文房具店はやおやの応用なので自主性や自発語を尊重する。	お 金 メ モ やおや 文房具店	最後まで話したか 最後までよく聞いたか
4. 帰り道で母親に電話をする ○もしもし、〇〇さんですか ・はい、そうです ○ぼくは、〇〇です ・大雨だけどどこにいますか ○〇〇にいます。傘を持ってきてください ・すぐに持って行きますからそこで雨宿りをしていなさい。 ○はい、お願いします	○会話の内容を書いたものを見ながら電話をさせる。 ○ゆっくりと、はっきりと、大きな声で、 ○母親は子どもの発語に気をつけて、不明瞭な場合は何回でも聞き直すよう助言する。	メ モ 電 話 傘	要件がはっきり相手に伝わるように言えたか
5. 反省をする	○うまく話せたと思うところを言わせてほめる。		

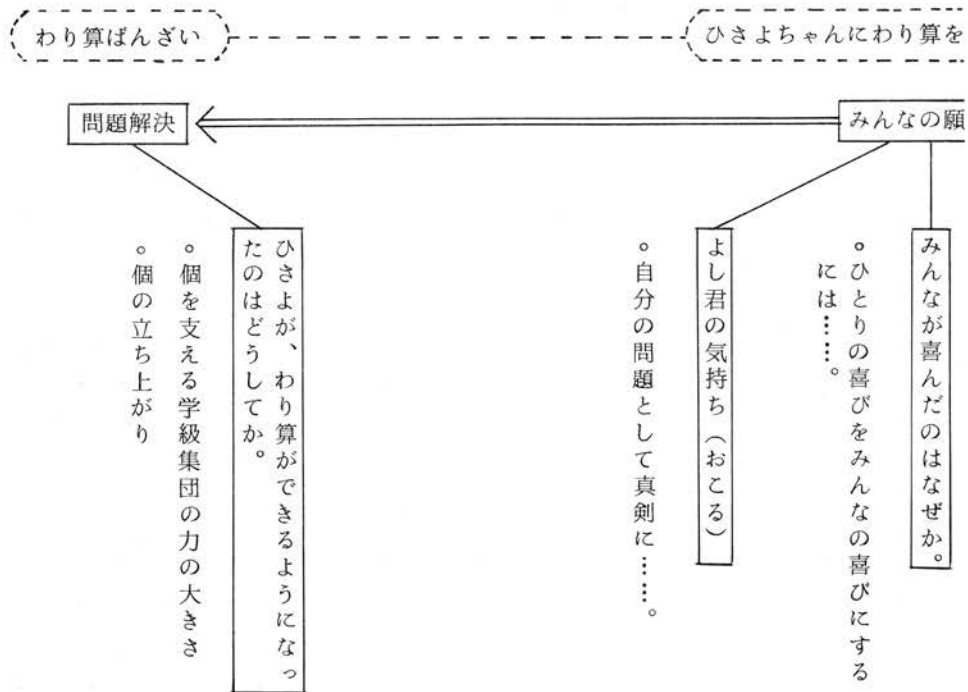
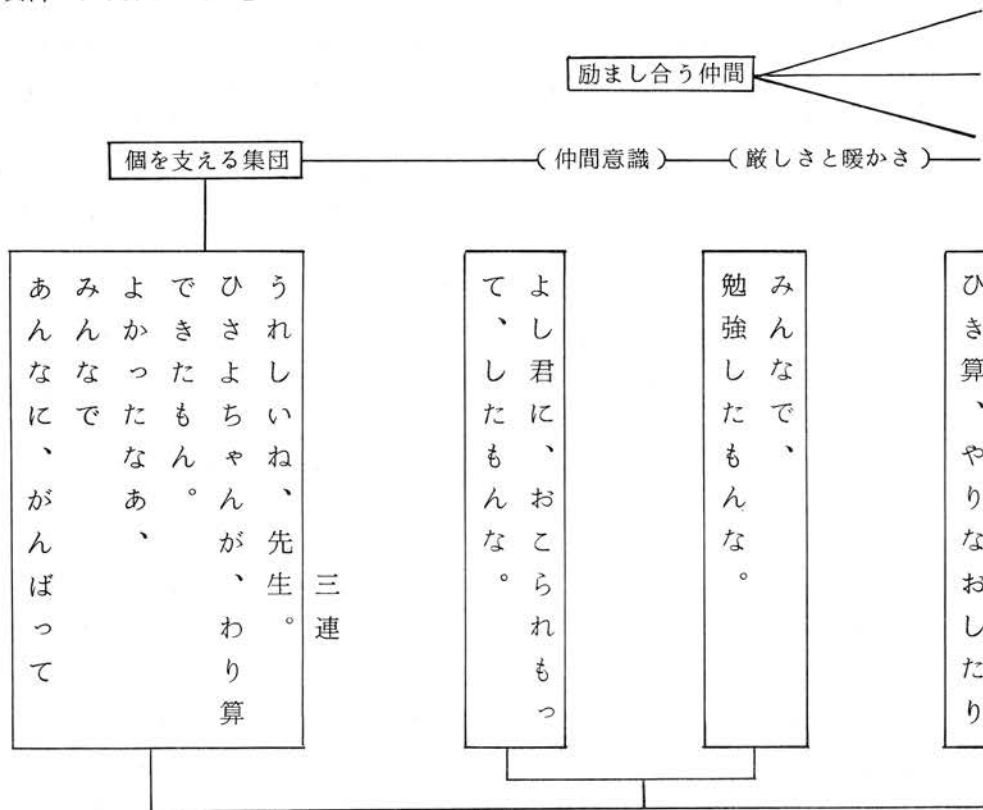
第3学年1組 同和学習指導案

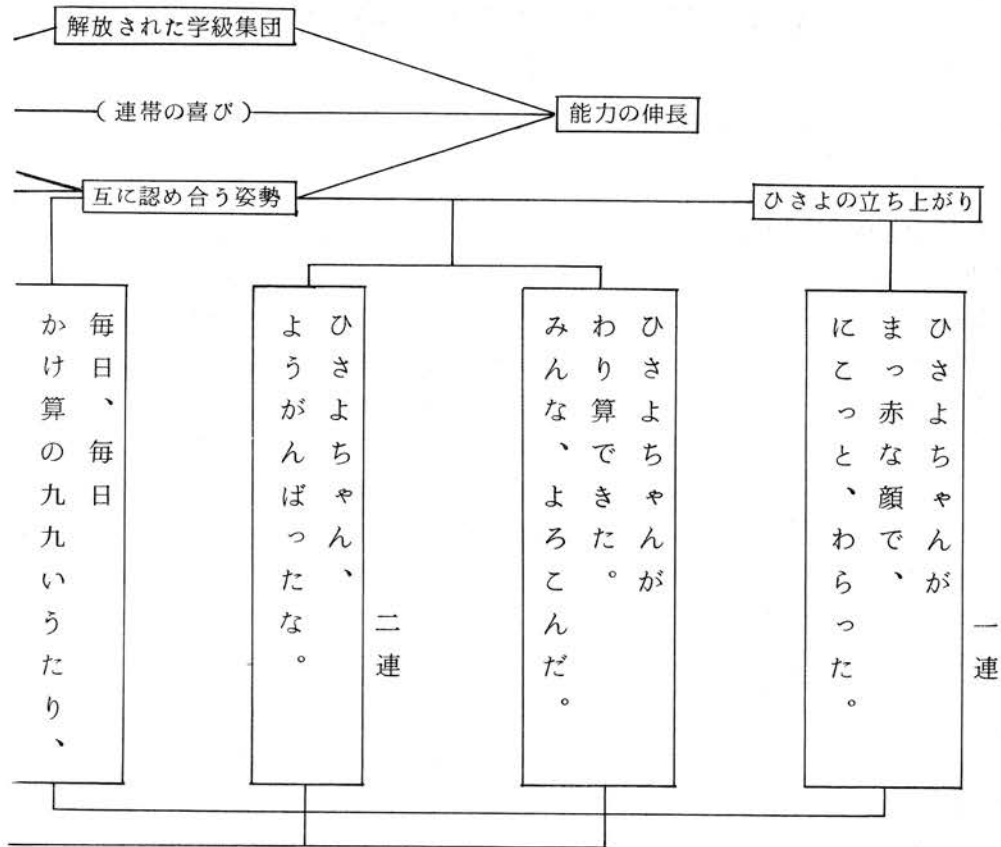
指導者 沢田 映子

1. 主 題 S君の願いをみんなで(わり算ばんざい)
2. 趣 旨
 - 本学級児童は、グループの中で問題をだし合ったり、話し合ったりしていく中で、みんなで考え、みんなで行動していくことの大切さを少しずつ理解してきた。しかし、それは、観念的初歩的なものであって、実際の場に当っては、友達が困っていることに気がついても積極的に支える所までいかず、逆に「だめな子」と優越感をもって相手を蔑視したり、「かわいそう」と単に同情におわりがちである。グループの中でも「あの子がいなかったら」と敬遠したり、「もう知らんわ」と投げやりになったりする。その中にあって、S君も自分の願いや能力を十分にだし切れずにいる現状である。
 - 資料「わり算ばんざい」は、一人の児童に学級全体がかかわって願いを実現したという、非常に明るい展望と力強さが短い文の中に生き生きと表現されていて、解放へのすじ道を示唆している。資料とS君のおかれた立場をからませながら学級集団を点検する中で、「S君ばんざい」と言える質の高い学級集団に高まろうとする意欲を持たせるのに適切な資料である。
 - 願いをあまりだせず、学業も伸び悩んでいるS君ではあるが、意欲をもって楽しい生活を送るためには、本人の立ち上がりが勿論必要だが、それを支える仲間に関心をあてて解決への道を探らせたい。「自分さえよければ」という利己的な考えや、「あの子よりまし」という優越感が仲間をばらばらにしていることに気づかせ、集団の力の大きさと個々のかかわりを考えさせる。そして、一人の問題もみんなの問題として受け止め、集団の中で真剣に話し合っ、共に解決していく喜びを分け合えるグループづくりに導きたい。
3. 目 標
 - 能力をだし切れないでいる一人の友達に気づかせ、暖かく、厳しい支えの中で共に成長することを喜び合える学級集団づくりへの意欲と展望を持たせる。
4. 計 画 (2時間)
 - 第1時 「わり算ばんざい」とわたしの願い
 - 第2時 S君を励ます学級やグループを求めて (本時分)
5. 本時の目標
 - 友達の伸び悩んでいる能力を伸ばすために、一人一人がいかにかかわってきたかを、S君中心に反省し、一人の問題もみんなで取り組んでいくことの大切さに気づかせ、実践へ結びつける。

6. 展 開

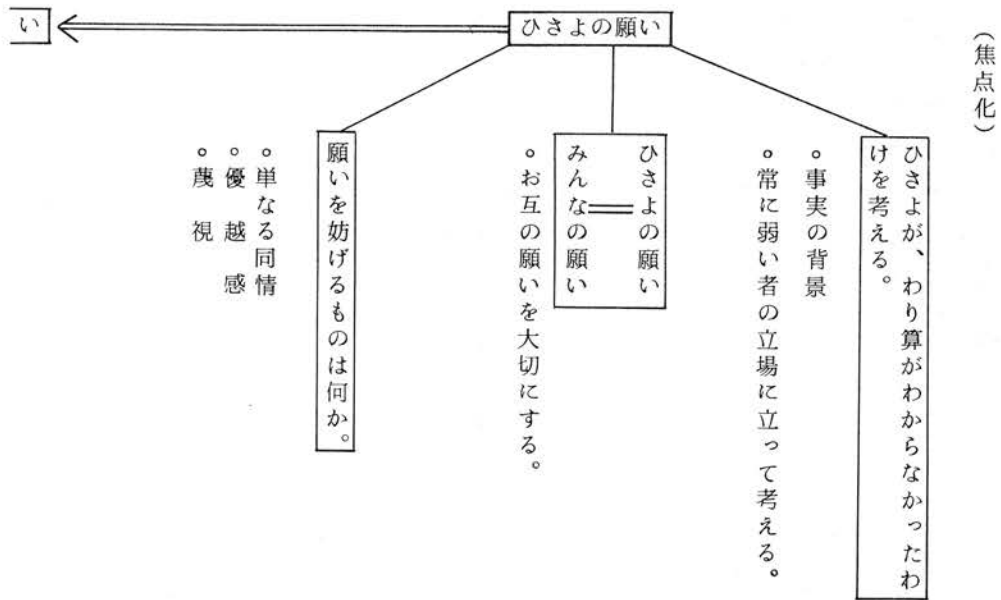
学 習 活 動	着 眼 点	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等
<p>1. S君のグループを中心に、各グループの取り組みのようすを話し合う。</p> <p>2. どうすればS君が「わり算ばんざい」と言えるようになるか、資料と比較しながら考える。</p> <p>○自分はS君に何ができたか (個人)</p>  <p>○ひきよちゃんの場合と比べて自分達に足りなかったのはどんなことか (グループ)</p>  <p>(よかったなみんなでがんばって)</p> <p>○S君はみんなのことをどう思っているか。S君の作文から願いを追求し、実現していくためにはどうすることが大切なのか話し合う。(全体)</p> <p>3.自分達のグループの問題について、自分はどうしなければならぬかを考える。</p>	<p>事実の確認</p> <p>問題の共有化 意識化</p> <p>自己点検</p> <p>問題解決の喜びを分かち合える 集団の姿</p> <p>S君の願い (みんなの願い)</p> <p>S君の喜び (みんなの喜び)</p> <p>仲間意識の高揚</p>	<p>○自分達のグループと比較させながら、つまづきの実態を把握させる。</p> <p>○S君に焦点をあてて、願いを阻む原因を追求させる。</p> <p>○優越感をもってS君に接しなかったらどうか。一方的な押しつけによる方法で解決しようとしていなかったか点検させ、ANにより現状を知らせる。</p> <p>○励まし、支え合う集団の中でこそ個々の能力の伸長がはかれることを理解させ、一人一人がひきよと真剣にかかわっていることに気づかせる。</p> <p>○S君のほんとうの悩みや苦しみを知り、S君の願いを大切にいくことが問題解決につながっていくことに気づかせる。</p> <p>○暖かく厳しい支えにより友達の伸び悩んでいる力が伸びた時、伸ばした者にとっても大きな喜びとなることを理解させる。</p> <p>○一人の問題もみんなの問題として解決するすじ道を具体的に考えさせ、特設バズでの実践化につなぐ。</p>	<p>生活ノート はん日記</p> <p>ともだち「わり算ばんざい」</p> <p>絵</p> <p>AN</p> <p>絵</p> <p>S君の作文</p>





わからせたい

わり算がわかりたい



第3学年2組 理科学習指導案

指導者 西影 裕一

1. 単 元 じしゃくのきょく

2. 趣 旨

- 本単元は、磁石のひきつけあったり退けあったりする現象を手がかりに、磁石のはたらきや性質について理解させるのがねらいである。
- 今までに児童は、磁石は鉄をひきつけるはたらきのあることを学習してきた。しかし、両極の性質については33%の児童しか知らない。同様に、磁石のまわりにはたらく力については10%で、磁石の鉄を磁化する力については12%でしかなかった。
- 以上のことから指導にあたっては、磁石は南北を向くこと、異極どうしはひきあい、同極どうしは退けあうことなどから、極の性質には違いがあることを理解させる。また、磁石の力ははなれていてもはたらくことから、磁石のまわりの強さや方向について理解させる。磁石は鉄くぎを何本でもひきつけることから、磁石につけた鉄くぎは磁石になっていることを理解させる。これらの現象を実験で確かめていくことによって、物質の性質を科学的に考えていけるように指導したい。

3. 目 標

- 磁石は、自由に動けるようにしてやると南北をさしてとまることに気づかせる。
- 磁石にはN極とS極があり、異極どうしはひきあい、同極どうしは退けあうことをわからせる。
- 磁石のまわりにはたらく磁石の強さや方向には、両極からの隔りによって違いがあることをわからせる。
- 磁石に鉄をひっつけたりこすったりすると、鉄が磁石になることを気づかせる。



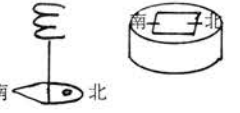
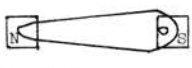
4. 計 画 7時間

- 第1次 学習の計画をたてる 1時間
- 第2次 磁石の性質及びはたらき 3時間
- 第3次 磁石作り
 - ・ ひっつけたときの磁化 1時間 (本時分)
 - ・ こすったときの磁化 1時間
- 第4次 まとめ・評価 1時間

5. 本時の目標

- 針を磁石にする方法をわからせる。
- 針が磁石になっていることや、その極を調べる方法に気づかせる。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
<p>○方法を考えよう。</p> <p>○確かめながら実験しよう。</p> <p>○針磁石の極を調べよう</p> <p>○実験の結果をまとめよう。</p>	<p>1.前時の復習をする。</p> <p>2.示範実験をみて考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>もっと強い磁石を作るにはどうしたらよいだろう</p> </div> <p>3.強い磁石作りの方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 長い時間つける こする たたく  <p>4.磁石になったかどうか確かめながら実験する。</p>  <ul style="list-style-type: none"> 砂鉄・方位磁石・くぎ 一方向にこするとよい <p>5.自分の針磁石の極を調べる。</p>   <p>6.実験の結果について話しあいまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一方向にこすると強い磁石ができる。 <p style="text-align: center;">個 人 ↓ グループ ↓ 全 体</p>	<p>○強力な針磁石を示し、磁石作りの意欲を高める。</p> <p>○前時までの学習をいかし強い針磁石作りの方法を考えさせる。</p> <p>○針使用上の安全を確認させる。(手元に針の耳)</p> <p>○磁石になったかどうかを確かめながらくりかえし磁石作りをさせる。</p> <p>○一方向へこする作業がわかりにくいときは、ヒントを与える。</p> <p>○こする方向と極のでき方についてはかなり高度なので、あまり強調せず磁石の両極の名前をつけるぐらいにとどめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 示範磁石 針 磁石 方位磁石 砂鉄 くぎ 糸 水そう 	<p>○本時学習課題が明確につかめたか</p> <p>○確かめながら磁石作りができたか</p> <p>○実験が安全にできているか</p> <p>○これまでの学習をいかし極が調べられたか</p> <p>○磁石作りの方法がわかったか</p>

第4学年1組 特設バズ学習指導案

指導者 小笠原一恵

1. 内 容 生活バズと予習バズ(社会科)

2. 趣 旨

- 学級減による編成替えのため、4月に45名で出発した学級であるが、2学期の現在 44名、4人のグループが11という構成になっている。1学期の6月より、グループ単位での生活点検を実施し、よりよい学校生活をおくるための足がかりとなることをねらっていたが、1学期の終わりごろには、ややマンネリ化した状態になった。すなわち、お互いの慣れが 友だちを傷つけるようなできごとを平気でみすごしたり、学級にとって重大な問題をはらんだ事件もあいまいにしてしまう甘さもみられるようになった。また、係からの呼びかけに反応しなくなるなど、惰性に流れる生活がめだってきた。

そこで、9月からは 自己点検を主として、自己に対するきびしさを身につけていかせたいと考え、点検カードの形式もかえた。そして、それにグループの相互評価を加味できる場として、グループバズを位置づけた。また、そのあとに全体バズの場をもうけ、その日の学級生活を反省し、あすへの意欲を持つ時間とさせたい。

- 社会科の学習時間の終わりに、予習課題を出すようにしているが、それだけでは、どのように学習してくればよいかわからない児童もいる。特に「地域の開発」の単元では、児童自身で資料を見つけることはむずかしいので、いくらかの資料は、教師が用意し、その見方、活用の方法を考えさせ、各自で、家庭学習へのルールがひかれるようにさせたい。

3. 目 標

◦ 生活バズ

点検カードによって自己点検をし、それにグループバズによる相互評価を加味して、一日の反省をし、また、学級の生活について話しあう中で、よりよい明日への足がかりをつかませる。

◦ 学習バズ

「姫路の新田開発のようすを調べよう」という予習課題について、何をどのように調べればよいか考え、それを「学習のしおり」にまとめることによって、課題解決のみとおしを持たせる。

4. 展 開

過程	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
<p>学習バズ 確 認 ↓ 計 画 ↓ 資料の 吟味 ↓ 方法の 分析</p>	<p>1. 予習課題を確認する 「姫路の新田開発を調べる」</p> <p>2. どんなことを調べたらよいか 話しあう ・ いろいろ ・ どこに ・ だれの手によって ・ どの位の規模で ・ どんな目的で</p> <p>3. どんな資料があるか考える。</p> <p>4. どんな方法でまとめるか話し あう ・ 図表化 ・ 年表化 ・ 要点のぬきがき</p>	<p>○ハイサーを使って、全員 が確認できたかどうかを たしかめる</p> <p>○個人——グループ——全 体と場をひろげ、できる だけ、たくさんの考えを 集めさせる。</p> <p>○「どの問題を解決するた めに、どんな資料がある」 というように、具体的に いわせる。</p> <p>○資料をどう活用するか、 各自に構想が持てるよう にさせる。</p>	<p>学習のし おり</p> <p>郷土学習 資料 「兵庫」 プリント</p>	<p>○課題を確認 できたか</p> <p>○自分の家庭 学習につい てのみとお しを持てた か。</p>
<p>生活バズ 点 検 ↓ 反 省 ↓ 発 表</p>	<p>1. 個人でバズノートをつける</p> <p>2. グループで、きょうの生活を 反省する</p> <p>3. この頃の学級について、思っ ていることを発表する</p>	<p>○単に○×をつけるだけに ならないよう、×なら× の理由を記述させる。</p> <p>○バズノートより、学級に 関する記述部分を発表さ せる</p>		<p>○グループ全 員が話しあ いに参加し ているか。</p>

第5学年2組 理科学習指導案

指導者 森本 俊和

1. 単 元 てこのはたらき

2. 趣 旨

○ 4年の「てんびん」で、同じ重さの2つのおもりを支点から同じ距離の位置につると、てんびんはつり合うことを学習した。「てこのはたらき」では、つり合うことよりおもりの重さや、力のはたらく位置を定量的にみることから、支点を中心に傾ける力の関係や、てこは小さい力を使って大きい働きをするといった法則やきまりを見だし、自然界にはふしぎな法則性のあることに気づかせ、6年生の「かっ車と輪じく」では、てこの原理が応用されていることの学習に発展する教材である。

○ 児童の身のまわりには、「てこの原理」を応用した道具や機械が多くあるが、これらが、てこの原理を応用したものであるということをほとんど知っていない。(○てこということばを知っている。14名 ○てこの原理を使った道具を知っている。6名 ○てこはどんな時に使うか知っている。10名)

そこで、実験用てこを用いて左右の力のつり合いを調べる実験を通して、実用てこのはたらきを理解させるための基本としての力の見方や考え方を養いたい。

3. 目 標

- てこには、支点、力点、作用点のあることを知らせる。
- 同じおもりでも、場所によっててこを傾ける働きがちがうことに気づかせ、支点の左右の力のつり合いにはきまりがあることを理解させる。
- てこを使うと小さい力で重いものを動かすことができることに気づかせる。
- 支点にも力がかかっていることをわからせる。

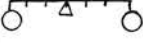
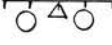
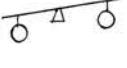

4. 計 画 8時間

第1次	学習計画をたてる……………	1時間	
第2次	重いものを動かす……………	1時間	第1時 力や重さ 第2時 左右のつり合い 第3時 支点にかかる力(本時分)
第3次	支点が中にあるてこ……………	3時間	
第4次	支点が外にあるてこ……………	2時間	
第5次	まとめ……………	1時間	

5. 本時の目標

- 支点には棒の重さと左右のおもりの重さを加えた重さがかかっていることを理解させる。
- おもりの数や位置をかえ、自分の考えを確かめようとする態度を養いたい。
- グループで協力して実験をする態度を養いたい。

6. 展 開

主な発問	学 習 活 動	指導上の留意点	資料等	評 価
<ul style="list-style-type: none"> なぜおれたのか 	<ol style="list-style-type: none"> 予習課題について話し合う 学習目標を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 支点に力がかかっていることに気づかせる。 	V T	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてがわかったか
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 支点には、どんな力がかかっているだろう </div>				
<ul style="list-style-type: none"> 支点にかかる重さはどちらが重いか 	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>(A)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(B)</p>  </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> 予想をたてる <ul style="list-style-type: none"> 話し合う (グループ) <ol style="list-style-type: none"> 実験する <ul style="list-style-type: none"> 方法を考える <ul style="list-style-type: none"> 手 ばねばかり たしかめる 結果…… A = B 	<ul style="list-style-type: none"> 予想の理由をはっきりさせる。 話し合った後、予想変更をさせる。 重さを手ごたえで調べさせ、次にばねばかりではからせる。 	A N ₁ A N ₂ 実験用てこ ばねばかり おもり	<ul style="list-style-type: none"> 予想がたてられたか 協力しながら実験できたか
<ul style="list-style-type: none"> ばねばかりの重さは何の重さか 	<ol style="list-style-type: none"> 条件をかえて調べてみる 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの実験で結論を決めずゆきぶりをかける。 	T P	
<ul style="list-style-type: none"> どんな時でも支点にかかる力は同じか 	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>つり合わない時</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>距離がちがう時</p> </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> 実験の結果をまとめる <p style="text-align: center;"> 支点にかかる力 = (棒の重さ) + (おもりの重さ) </p> <ol style="list-style-type: none"> 評価と次時予告 応用問題、整理 	<ul style="list-style-type: none"> 力の方向もおさえる 本時目標が達成できたか問題をさせる。 	A N ₃ T P	<ul style="list-style-type: none"> 支点にかかる力がよくわかったか。

第5学年3組 同和学習指導案

指導者 平井 均

1. 主 題 川北さんにまけないぞ！ (川北さんの歩んできた道)

2. 趣 旨

- 児童は、物事を正しく見つめる力や、みんなで力を合わせてよくなっていくとする態度を身につける学習をし、自分と自分たちの生活を見直してきた。しかし、差別に根ざす誤った考えや行いを深く追し、解決していくとする意識は、まだまだ乏しい。「うわべだけで判断してはいけない。」とか「みんなが力を合わせるとできる。」とか「友だちを大切にしなければいけない」など。ことばのうえで、深く内面化され、行動に結びつくには至っていない。だから、世の中に実在する誤った考え方や人間軽視の事実について、深く考えが及んでいるとはいえない。親の仕事について、「いやだ」とか「はずかしい」と思っていることが、生活作文にうかがえるが、正しい職業観は養われていない。
- 資料「川北さんの歩んできた道」は、実態からみて、苦労の過程を追う指導になると、同情的に美談として受けとめてしまう危険性をもっている。しかし、差別にめげず、力強く立ち上がっていく川北さんの生き方を通して、仲間の支えの大切さを理解し、誤った職業観を追求していく中で、どんな職業でもそこで働く者にとって、生活していくうえでどれだけ大切なものであり、社会的価値に変わりという正しい職業観を育てることが出来る。また、弱者へのはげましと展望を与え、人間としての生き方を考えさせることが出来るものである。
- 差別をはねのけ、支え合うことの大切さや正しい職業観を育て、人間としての生き方を考えさせていくのであるが、差別がなくなる原因を追求するとき、ひとりひとりの内にある差別意識に気付かせ、この意識が、自分と自分を取りまく仲間の成長をはばむものであることを認識させたい。行きつ戻りつの指導をおし進め、仲間で支え合い、川北さんに負けないで、差別をはねのける強い意志と行動力を身につけさせたい。

3. 目 標

- 差別にくじけず、はねのけ、力強く自立していく川北さんの生き方から、仲間の支えを理解し、社会に実在する誤った職業観を知り、その職業の社会での役割を話し合う中で、正しい職業観を育てる。

4. 計 画 (5時間)

第1次 どん底から立ち上がる (2時間)

第1時 生きるためにはほろ買いしかない (どん底)

第2時 ばかにするやつにはぜったい負けんぞ (どうだと言うんだ) (本時分)

第2次 ひとりだちへ (3時間)

5. 本時の目標

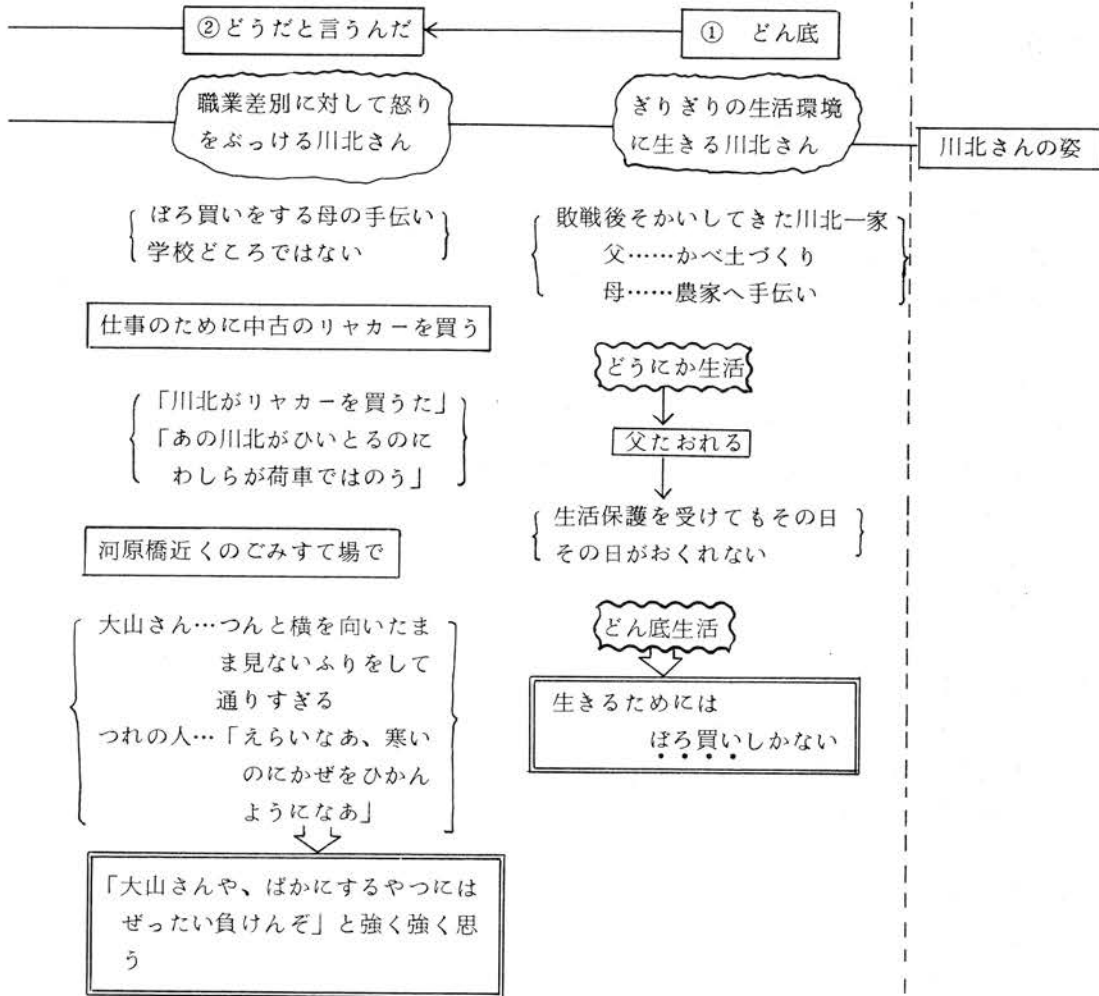
- 生きるために真剣にやっているほろ買いや仕事に対するべつ視の言動を話し合う中で、人間の権利をうばう差別に気付かせ、怒りをもって差別をはねのける意欲を育てる。

6. 展 開

学 習 活 動	者 眼 点	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等
<p>1. 川北さんの生活を話し合う。 (グループ→全体)</p> <p>○自分に出来ることは</p> <div data-bbox="252 465 587 696" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>これしかない → ほろ買い</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>生きるため</p> </div> <p>○なぜ学校どころでないのか。</p> <p>○なぜリヤカーがほしいのか。</p>	<p>ぎりぎりの生活(生活権)</p> <p>貧困がおかす学習権</p>	<p>○川北さんのどん底の生活を想起させ、自分であればどうしたか、自分とからませて話し合わせる。</p> <p>○生活作文から子どものことばを借りて、自己へ目を向ける。</p> <p>○なぜ学校を休んでもおかあさんは何も言わないのかを考え、母の気持ちを想像させる。</p>	<p>資料</p> <p>生活作文 TP</p>
<p>2. 川北さんを取りまくまわりの人たちについて話し合う。 (全体)</p> <p>○おかあさんの受けとめ</p> <p>○町の人たちの差別</p> <p>○大山さんの差別</p> <p>○つれの人</p>	<p>職業差別</p> <p>同一視を恐れる差別観念</p>	<p>○川北さんを取りまく人たちについて、ことばや態度から、差別の現実をうきばりにさせる。</p> <p>・「あの川北が……、わしらが荷車ではのう。」</p> <p>・ほろ買いの川北でさえ</p> <p>・つんと横を向く</p>	<p>TP</p>
<p>3. こんな中で、川北さんがどんな思いで生きていくか考える (個人→全体)</p> <p>○「ばかにするやつにはぜったいに負けんぞ。」</p> <p>○もし自分だったら</p>	<p>差別への立ち向かい</p>	<p>○川北さんのことばのうらにある「人を見下げるな、やさしくしてほしいのではないぞ!」という強い訴えのあることを気付かせたい。</p> <p>○自分の生活経験で、どう思うか考えさせる。</p>	<p>生活作文 (教師の書きそえ)</p>
<p>4. 今日の学習のまとめをする</p> <p>○ノートに今の思い、考えを書く。</p>	<p>学習の内面化</p>	<p>○心に強く残ったことを、学習の整理と点検のためにまとめさせる</p>	<p>ノート</p>

をつくろう

える（科学的認識）……正しい職業観
に解決する（連帯意識）



（焦点化）

。どんな職業でも、そこで働く人にとっては生活にきわめて大切なものであり、社会的価値に変わりがない。

。労働のなかでのつらさ、苦しさ、腹だちは、労働それ自体にあるのではなく、社会的偏見や待遇などの差別によるものである。

第6学年3組 特設バズ学習指導案

指導者 田中 誠

1. 内 容 生活バズと学習バズ(算数)

2. 趣 旨

- 6年生ともなると、1日のくらしの幅はずいぶん広がっている。委員会、クラブ、児童作業、運動会等の各種の行事、またクラスにあっては係活動、グループ活動などもある。それらの1つ1つは本当は新鮮味があって、意欲的に行動できるものであるはずである。しかし、実際は、回を重ねるごとに惰性に流れて何も考えないで動いていることが多い。身なりや生活習慣についても同様のことが言える。そこで、1日の終わりにその日の出来事を反省し、友達と話し合う中で、明日のくらしがいくらかでもめあてを持って過ごせるように生活の点検項目を設けて反省している。
- クラスの子は男女とも仲良くしているように見えるが、本当に友達同士で力を合わせて何かをしたことは少ない。復習的な教材である算数の \times を使った式では、事前テストの結果、数人の児童はまだ \times の解法を完全には理解できていない。そこで、グループの中で全員が楽しみながら、協力して方程式を解く「数あてゲーム」を行なうことによって、すべての児童ができるだけ同じ出発点に立ってから次の教材(\times を使って文章題を解く問題)へ入っていきたい。

3. 目 標

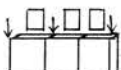
○ 生活バズ

学校生活での集団の1員として、個人の行動を自己点検し、クラスの問題を話し合うことによって明日への意欲を高める。

○ 復習バズ

$3\times+15=45$ の型の問題を自分が出題したり解いたりしながら、解けるようにする。またグループ内で、わからない所は質問をしたり、説明し合ったりしながら、協力して学習する態度を養う。

4. 展 開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
生活バズ 点検 ↓ 話し合 い	1. あいさつ 2. バズノートに記入する。 3. 全体の場で話し合うことを出し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 簡単に各項目を自己点検させる。 1部の子に発言がかたよらないように注意する。 		<ul style="list-style-type: none"> $3x = 18$の解き方がわかっているか。
学習バズ 課題の 確認 ↓ 練習す る ↓ 反省・ 吟味	1. 前日の特設バズの内容を復習する ($3x = 18$ など) 2. どんな遊び方かを確認する <ul style="list-style-type: none"> 1人が出題 答えの出し合い 質問 説明 次の出題者の指名 3. ゲームをする  $+ 18 = 45$ カードを入れて、みんなが解く。出題者も解く。 <ul style="list-style-type: none"> 全員できたら、カードを出して答えを確認し、説明し合う。 4. 今日のゲームの反省をする <ul style="list-style-type: none"> 楽しくできたか。 よくわかったか。 困ったことはなかったか 	<ul style="list-style-type: none"> 司会が指名して言わせるようにする。 $3x + 15 = 45$の型の方程式をゲーム化し、楽しみながら解けるように配慮する。 机間巡視しながら、自分なりに方程式を解いているか確認する。 理解できていない子を特に気をつけて指導する。 次時には方程式を使って問題を解くことを予告する。 	小箱 カード	<ul style="list-style-type: none"> グループで協力して楽しくゲームできたか。 $3x + 15 = 45$の問題が解けたか

第5・6学年難聴学級 算数科学習指導案

指導者 大畑 稔

1. 単 元 考えましようーきまりの発見

2. 趣 旨

- 本学級は、5年6名、6年5名の50dB～90dBの難聴児により構成されている。その聴力損失の程度にも巾はあるが、種類も伝音性難聴2名、感音性難聴9名、障害部位は低音部中音部高音部と様々である。性格は明るく活動的な児童であるが、難聴であるが故に、ことばの発達にも遅れが目立つ。とくに話しことばには大きな障害が出ているので発表や話し合いは自由に行うことが困難である。そのことが文の読解力の遅れにもつながり文章題を苦手とする児童が多く、文を深く読まず文面に出てくる数字のみを拾い処理してしまう傾向がある。
- このことから、児童にとっては「考えましよう」は苦手な分野であるが、直観的な判断や操作を主体にし、きまりを発見していく本単元は、比較的取り組み易い。しかも、発見という喜びが次の課題を解決しようという意欲にもつながり易く、文を深く読もうとする態度を培う上にも役立つ。また本単元は、数量関係を多角的に見たり、数量をいろいろ操作することで、変化する数量の関係から、一定の法則を見い出していこうとする単元でもある。
- そこで、第1次の導入時では、5・6年共通の課題、しかも、結果は単純に和を出せば誰にでも得られる課題を取り上げることで、数量の関係に着目させることができることから、いろいろな立場(学年や個人の)で多角的な考え方を出し合い、思考の巾を広げていきたい。そこで広めた観点や味わった喜びを、次時の各学年の課題を解決する糸口になるようにしていきたい。文から読み取ったことを動作で表現することで数量関係を正確に把握させ、個々の段階に応じて、直観的な判断を大切にしながら、図式化や表などをOHP上でのタイルやシートの操作をすることで、個々の考え方を正確に伝え合わせて、徐々に数量関係の法則化への考え方を構築させるようにしていきたい。

3. 目 標

多角的に数量関係をとらえようとする態度を身につける。また、あの場合の変わり方のきまりから他の場合を類推できることで、数量関係の公式化への素地を養う。

4. 計 画 (5時間)

第1次 規則性に目をつけて解決する問題

第1時(5・6年共通) 頂点の和を求める (本時分)

第2時(5年)数の少ない場合の規則性から (6年)変わり方を見つける(3時間)
多い場合を求める(2時間)

第2次 いろいろな場合を調べて解決する問題(5年2時間・6年1時間)

5. 本時の目標 (5・6年共通)

- 関係する数の間に一定のきまりがあることを見つけさせ、それをことばで表現させる。
- いろいろな場合を考えて、工夫して表にまとめようとしたり、自分の考えが相手に理解されるように発表しようとする態度を養う。

6. 展 開

発 問	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	資 料 等	評 価
<p>課題 1</p> <p>表の中にいくつかの正方形を書いたとき、正方形の頂点にあたる数の和を求めなさい。どんな求め方があるだろう</p> <p>4つの数と、その和の間にはどんなきまりがありますか。</p> <p>課題 2</p> <p>先の表に図のような直角二等辺三角形をいくつか書いたときの3つの頂点の和を求めなさい。</p> <p>課題 1 で考えたことをもとにして、3つの数と、その和の関係を見つけよう。</p>	<p>。「聞こえ」の状態を各自点検する</p> <p>1.いろいろな場合の和を発表する。</p> <p>2.見つけたきまりを出し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係の見つけ方 ・関係の式 <p>3.いろいろな場合を試しながら、予想を立てる。(図)</p> <p>4.式を使って確かめる。</p> <p>5.教科書の問題(5年下P50・6年下P68)を見て予習課題を知る。</p>	<p>発表形式が多いので補聴器は通常の状態で使用させる</p> <p>予習課題であるので考えてきたことを全員に発表させ考え方の差違を確認させる</p> <p>(表) 視覚機器を使用することで、個々の考え方を正確に発表させる</p> <p>発想の出にくい5年には具体例を示し、考える糸口とさせる。</p> <p>3・4人で話し合わせ関係を式にまとめさせる。</p> <p>OHP上で具体的に示すことで課題の意味を十分に把握させる。</p> <p>直観で得たものを発表させてから、3・4人で話し合わせる。</p> <p>直角の位置にあたる数に着目させて表にまとめさせる他に成立する場合を発見したときは取り上げる。</p> <p>学年に応じて本時の学習の中から考え方の糸口となることを抽出して示唆することにより課題に取り組む意欲を高めていく。</p>	<p>集団補聴器・個人補聴器</p> <p>数表</p> <p>TP</p> <p>カラーシート(正方形)</p> <p>TU</p> <p>カラーシート(直角二等辺三角形)表</p> <p>教科書</p>	<p>ボリュームの調節ができたか。</p> <p>友達の意見が正しく聞けたか。</p> <p>相手に伝える発表ができたか。</p> <p>いろいろな見方や考え方で求められたか</p> <p>関係の式が他の場合に使えたか。</p> <p>表に整理できたか。</p> <p>どのようなきまりを見つけたか。</p> <p>予習課題がつかめたか。</p>

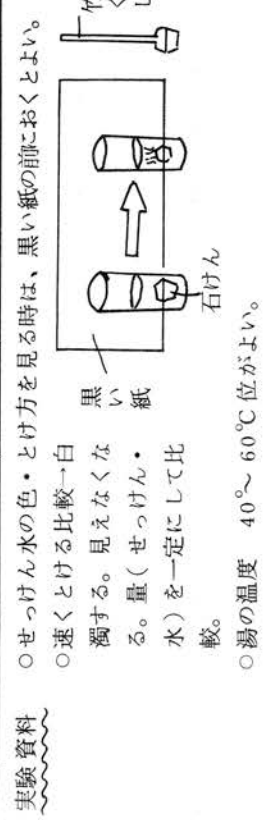
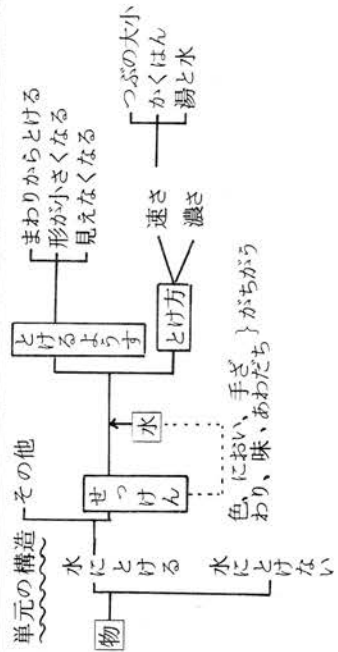
学習の手引き

1年 算数科 カードとり 2時間

領域	中心概念	基本要素	中心課題	AV資料	評価
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常の数量の現象を、素朴な立場で観察する。 ○ 一つの数をいくつかの数の和としてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「カードとり」のゲームの仕方を理解する。 ○ 1つの数をいくつかの数の和としてみる ○ さいころの目と数字カードを対応させて考えていく。 	<p>○ 「カードとり」のゲームをしましょう。</p> <p>○ どんな取り方ができるか、かんがえましょう。</p> <p>ア) 1 2 3 4 5 6</p> <p>〈すべてのカード〉</p> <p>1—2, 3</p> <p>1—3, 4</p> <p>1—4, 2—3</p> <p>5</p> <p>1—2—3,</p> <p>1—5,</p> <p>2—4, 6</p> <p>イ) 1 2 3 · 5 6</p> <p>〈カードをぬいて〉</p> <p>1—3 が出た</p>	<p>TP VID</p> <p>TP</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仲よくゲームを進め、真剣に、取り組んで、取り方を工夫したか。 ○ さいころの目と同じ数のカードが取れたか。 ○ さいころの目の数と同じになるように、カードの取り方がいろいろ考えられたか。

2年 理科 シャぼんだま 6時間

領域分野	中心概念	基本要素	教科書	中心課題	AV資料	評価
物質とエネルギー	<p>○物が水の中でとけると、その物の形やとけた水のようにすが変わる。</p>	<p>1. せっけんを水の中へ入れると、しだいにやわらかくなって、まわりからとけていく。</p> <p>2. せっけんは、粒の大きさ、湯・かくはんのしかたによってとけ方がかわる。</p> <p>3. せっけん水と水とは、におい、色、手ざわり、あわだちがちがう。</p> <p>4. シャぼんだまのでき方は、せっけん水のこさによってちがう。</p>	<p>P 5 2</p> <p>P 5 3</p> <p>P 5 4</p> <p>P 5 5</p>	<p>○せっけんを水にかかして、シャぼんだまをつくろう。</p> <p>○せっけんを水に入れると、どのようなとけていくだろう。</p> <p>○せっけんは、どのようにするとはやくとけるのだろうか。</p> <p>○せっけん水と水とは、どんなところがちがうか比べてみよう。</p> <p>○シャぼんだまが、うまくできるよりに、せっけん水をこくしたり、うすくしたりしよう。</p> <p>○いろいろなるものとけ方をしらべてみよう。</p>	<p>理T P 2-12</p>	<p>○水の中に入れた石けんの変わりが、観察できたか。</p> <p>○せっけんのとけ方が、粒の大きさ、水の温度かくはんのしかたなどで、ちがうことに気づいたか。</p> <p>○せっけんのはやくとける条件がわかったか。</p> <p>○せっけん水と水とのちがいがわかったか。</p> <p>○ときとうなせっけん水ができ、大きなシャぼんだまができたか。</p> <p>○水によくとけるものに、どんなものがあるかわかったか。</p>



3年 社会科 すみよい市 12時間

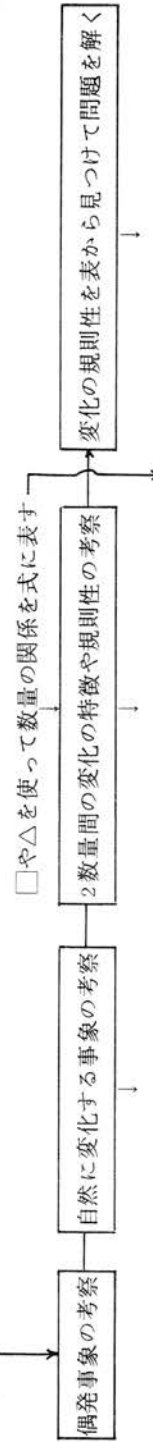
大単元	中心概念	基 本 要 素	課 題	A V資料	評 価
す み よ い 市	市はひとつの地域共同体として、人々の健康を守ったり災害に対処したりする活動を、組織的にすすめている。	<ul style="list-style-type: none"> 市ではいろいろな施設を計画的につくって上水を確保している。 市では工場廃水を衛生的に処理してから下水路に流したり、家庭から出る下水を集めて処理している地域もあるが完全でない地域もある。 	<ul style="list-style-type: none"> くらしに使う水は、どのようにしてわたしたちの家にくるのだろうか。 姫路市では汚れた水のしまつをどのようにしているのだろうか。 	16mm フィルム 社 79 社 T P 3-6 V T S L	<ul style="list-style-type: none"> 上水道のしくみがわかったか。 下水道の処理について考えられたか。
		<ul style="list-style-type: none"> 人口の増加や生活の変化で市ではごみの量が急激に増加してきている。 市ではごみを早く衛生的に処理できるように努力をしてきている。 水害を防ぐために、いろいろな施設や組織があり被害を最小限にいとめるはたらきをしている。 火災が発生すると消防署や警察などがすばやく連絡をとり合って直ちに出勤できる機動的な組織体制をととのえている。 いつどこで火事がおきても、もえひろがらないように、市では要所に消火施設の配備やもえない町づくりを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 市ではごみを衛生的に処理するためにどんなことに努力をしているだろうか。 市民を水害から守るためにどんな施設や組織がつけられているだろうか。 いろいろな組織や施設が相互に関連をもって役割をはたしているのではなかろうか。 もえ広がらない町づくりをどのようにくふうしているのだろうか。 	社 T P 3-7 V T S L 社 T P 3-8 V T S L 社 T P 3-9 V T S L	<ul style="list-style-type: none"> ごみを衛生的に処理するしくみがわかったか。 水防の組織やしくみがわかったか。 早く消火できるしくみをもとにしらべられたか。 防火に対する工夫や活動がつかめたか。
		<ul style="list-style-type: none"> 市民の健康や安全を守るために、市役所や保健所は組織的なしくみや働きをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保健所や病院はどんな仕事をしているのだろうか。 	社 T P 3-10 V T S L	<ul style="list-style-type: none"> 保健所のはたらきがつかめたか。

4年 算数科 かわり方 5時間

領域	中心概念	基 本 要 素	中 心 課 題	A V 資料	評 価
数 量 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 偶発的現象(じゃんけん)の記録を数量的な観点にたつて、考察する。 ○ 自然変化する事象の特性や規則性を考察する。 ○ 2数量間の変化の特徴や規則性を考察する。 	<p>じゃんけんの勝負</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 記録用紙をみながら、いろいろ考察する。 ○ 気温の変わり方や棒の影の長さの変わり方を、グラフや表にして変化の様子をしらべる。 ○ バケツに水れていったときの重さの変わり方をしらべる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記録用紙から、どんなことがわかったでしょう。 ・ 各自の得点を発表する。 ・ かちまけの順に言ってみる。 ・ 各自のたどったコースを線でつないでみる。 ○ 時間がたつにつれて、温度や影の長さなどのよのに変わったでしょう。 ・ 表に結果を記入する。 ・ おれ線グラフを書く。 ・ 変わり方をしらべる。 ○ 水のかさがふえるにつれて、重さなどのよにかわっていくでしょう。 ・ 測定して、水のかさと重さの表をつくる。 ・ グラフにかく。 ・ 規則性をしらべる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝負の結果が用紙に記入できたか。 ・ $x+y=13$ が理解できたか。 ・ 時間経過と温度の関係が理解できたか。 P 29 ⑤ ・ 変化の規則性がわかったか。 P 29 の④

1. 2年
3 年
4 年

対応や変化の経験

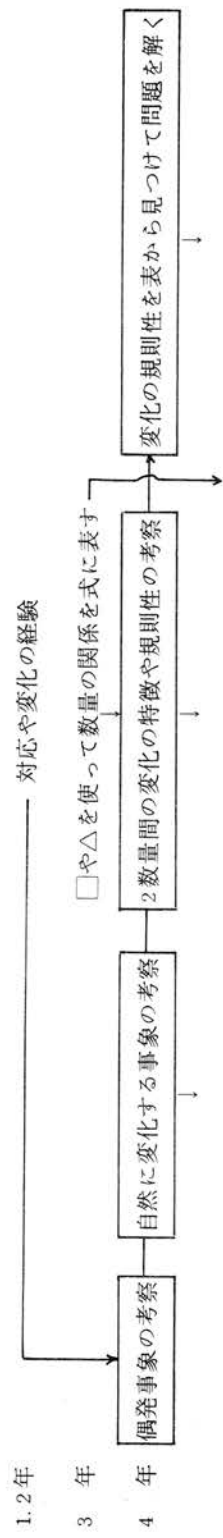


3年 社会科 すみよい市 12時間

大単元	中心概念	基 本 要 素	課 題	A V資料	評 価
す み よ い 市	市はひとつの地域共同体として、人々の健康を守ったり災害に対処したりする活動を、組織的にすすめている。	<ul style="list-style-type: none"> ○市ではいろいろな施設を計画的につくって上水確保している。 ○市では工場廃水を衛生的に処理してから下水路に流したり、家庭から出る下水を集めて処理している地域もあるが完全でない地域もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○くらしに使う水は、どのようにしてわたしたちの家にくるのだろうか。 ○姫路市では汚れた水のしまつをどのようにしているのだろうか。 	16mm フィルム 社 79 社 T P 3-6 V T S L	<ul style="list-style-type: none"> ○上水道のしくみがわかったか。 ○下水道の処理について考えられたか。
		<ul style="list-style-type: none"> ○人口の増加や生活の変化で市ではごみの量が急激に増加してきている。 ○市ではごみを早く衛生的に処理できるように努力をしてきている。 ○水害を防ぐために、いろいろな施設や組織があり被害を最小限にいとめめるはたらきをしている。 ○火災が発生すると消防署や警察などがすばやく連絡をとり合って直ちに出勤できる機動的な組織体制をととのえている。 ○いつどこで火事がおきても、もえひろがらないように、市では要所に消火施設の配備やもえない町づくりを進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市ではごみを衛生的に処理するためどんなことに努力をしているだろうか。 ○市民を水害から守るためにどんな施設や組織がつくられているだろうか。 ○いろいろな組織や施設が相互に関連をもって役割をはたしているのではなかろうか。 ○もえ広がらない町づくりをどのようにくふうしているのだろうか。 	社 T P 3-7 V T S L 社 T P 3-8 V T S L 社 T P 3-9 V T S L	<ul style="list-style-type: none"> ○ごみを衛生的に処理するしくみがわかったか。 ○水防の組織やしくみがわかったか。 ○早く消火できるしくみをもとにしらべられたか。 ○防火に対する工夫や活動がつかめたか。
	○市民の健康や安全を守るために、市役所や保健所は組織的なしくみや働きをしている。	○保健所や病院はどんな仕事をしているのだろうか。	社 T P 3-10 V T S L	○保健所のはたらきがつかめたか。	

4年 算数科 かわり方 5時間

領域	中心概念	基本要素	中心課題	AV資料	評価
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ○ 偶発的現象(じゃんけん)の記録を数量的な観点にたつて、自然変化する事象の数量間の変化の特徴や規則性を考察する。 ○ 2数量間の変化する事象を考察する。 	<p>じゃんけんの勝負</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 記録用紙をみながら、いろいろ考察する。 <p>気温の変わり方や棒の影の長さの変わり方を、グラフや表にして変化の様子をしらべる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ バケツに水れていったときの重さの変わり方をしらべる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 記録用紙から、どんなことがわかったでしょう。 ・ 各自の得点を発表する。 ・ かちまけの順に言ってみる。 ・ 各自のたどったコースを線でつないでみる。 ○ 時間がたつにつれて、温度や影の長さはどうのよになら変わったでしょう。 ・ 表に結果を記入する。 ・ おれ線グラフを書く。 ・ 変わり方をしらべる。 ○ 水のかさがふえるにつれて、重さはどのようにかわっていくでしょう。 ・ 測定して、水のかさと重さの表をつくる。 ・ グラフにかく。 ・ 規則性をしらべる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝負の結果が用紙に記入できたか。 ・ $x + y = 13$ が理解できたか。 ・ 時間経過と温度の関係が理解できたか。P 29 ⑤ ・ 変化の規則性がわかったか。P 29 の④



3・4年 社会科 水害を防ぐ 4時間

小单元	中心概念	基 本 要 素	課 題	A V資料	評 価
水 害 を 防 ぐ	私たちの郷土をはじめ、各地で水害になやんでいる土地が多く、人々は、市や県や国の助けを得て、水害を防ぐ努力を続けている。	3年	<ul style="list-style-type: none"> ○姫路市で起こった水害を調べよう。 ○どんな所が、よく水害を受けているだろうか。 ○水害にそなえて、川などをどのように修理しているだろうか。 ○水害の時の人々の働きを調べよう。 	社 T P 3-8 社 T P 3-8 S L	<ul style="list-style-type: none"> ○適当な資料を見つけたか。 ○水害と土地との関係がつかめたか。 ○水害防止のとりくみを調べられたか。 ○水防団の役割りがつかめたか。
		共通	<ul style="list-style-type: none"> ○台風時の写真や新聞などを集め、自分たちの経験や、被害状況をまとめてみよう。 ○台風被害を受けた市や町の小学校に手紙を出して、様子を聞いてみよう。 	S L V T 「水害を防ぐ」	<ul style="list-style-type: none"> ○写真や新聞の記事を見つけたか。
		4年	<ul style="list-style-type: none"> ○姫路市は土地が低くよく水害をうける。 ○姫路市は工業都市で、地下水のくみあげによる地盤沈下で、土地がさらに低くなっている。 ○姫路市はこれまで、何度も台風による高潮の被害をうけてきている。 ○住民の願いと市の努力、県・国の協力によって大きな防潮堤を作りあげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○兵庫県で起こった水害を調べよう。 ○姫路市で起こった水害について調べよう。 ○姫路市はなぜ何度も水害を受けるのだろうか。 ○姫路では水害を防ぐために、どんな努力をしているだろうか。 	社 T P 4-8 S L

5年 国語科 わらぐつの中の神様

領域	中心概念	基本要素	中心課題	AV資料	評価
読むこと (物語)	<p>使用者の身になって愛に結びつく。</p> <p>ものの本当の価値は外見にあるのではなく、それを作る人の真心にある。</p> <p>おみつさんとわらぐつの価値を見抜いた大工さんの心のふれ合いがやがて</p>	<p>○マサエの茶の間での語らい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スキーがわかない。 ・ 「一わらぐつはいいもんだ。一神様がいなさるでね」・「どれどれ、わたしも…」 <p>○雪が魅せられたおみつさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 雪がほしくてたまらなくなりました ・ 自分で働いてお金をつくろう。そして一 <p>○おみつさんと大工さんとの出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「一このわらぐつ、おまんが作ったの」 ・ 「ふうん。よし、もらっとう。」 ・ その次の市の日までに、また一つ ・ 「そのわらぐつ、くれない」 <p>○二人の心のふれ合いの高まり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「いやあ、一とてもじょうぶだよ」 ・ 「一おれだって職人だから、仕事のよしあしは分かるつもりだ。いい仕事ってのは、見かけだけで決まるもんじゃない。使う人の身になって使いやすく、じょうぶで長持ちするように作るのが、ほんとのいい仕事ってもんだ」 ・ 「なあ、おれのうちへ来てくれないか。」 <p>○マサエの新たな感慨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「一この雪がたの中にも神様がいるかも。」 	<p>(1)おばあさんが「わらぐつの中」に神様がいない「話」をするようになったのはなぜか。</p> <p>(2)おみつさんは、なぜ、わらぐつを作り始めることになったのか。</p> <p>(3)おみつさんの作ったわらぐつが若い大工さんだけに買いとられていったのはなぜか。</p> <p>(4)若い大工さんが、おみつさんをおよめさんにしたいとまで思うようになったのはなぜか。</p> <p>(5)おみつさんは、大工さんのところへおよめに行ってきたのはなぜか。</p>	OHP	<p>○おばあちゃんが、なぜ、話したくなったのかを読みとれるか。</p> <p>○自分で働いて雪がたを買おうとするおみつさん、心をこめてわらぐつを作るおみつさんの人柄が読みとれるか。</p> <p>○若い大工さんが、不細工なわらぐつを買ったわけが想像できるか。</p> <p>○わらぐつが、初めて売れた時の喜びがわかるか。</p> <p>○およめさんにしたいと考えたわけが読みとれるか。</p> <p>○ものの本当の価値が何であるかわかるか。</p> <p>○雪がたを大切にしている理由が理解できるか。</p>

(文の構成)

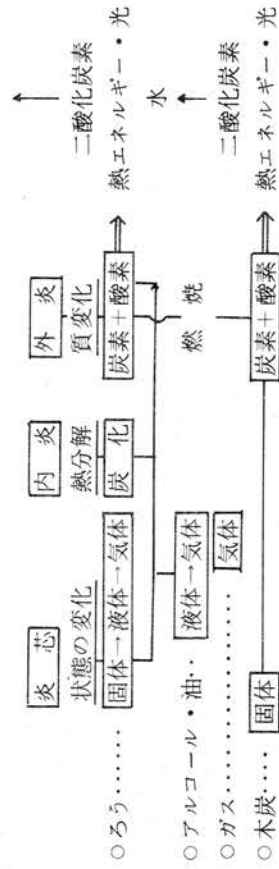


6年 理科 物が燃えるときの変化 10時間

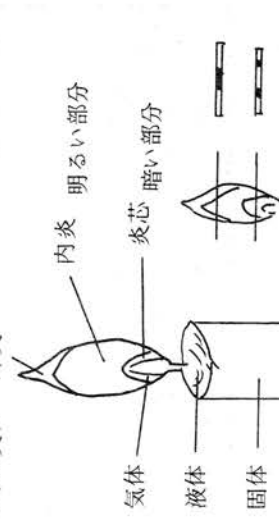
領域分野	中心概念	基本要素	教科書	中心課題	AV資料	評価
B 物質とエネルギー	熱(燃える)によって物の質が変化する。	1. ろうそくの炎は、気体が燃えるときでさる。 2. 炎は部分によって色、明るさ、温度がちがう。 3. 植物体をむし焼きすると燃える気体や水が出て後に木炭が残る。 4. 木炭の大部分は炭素である。 5. ろうそくが燃える時、ろうと空気が使われ水と二酸化炭素ができる。 6. 電流による発熱や打撃、まさつによる発熱は燃焼とはちがう。 7. 物の熱は燃焼・電流・まさつ・打撃などによってできる。	下 P 30.31 P 32.33 P 34 P 35 P 35 P 36.37	○ ろうそくの炎は、どんな燃え方をしているだろう。 ○ ろうそくの炎の色は部分によって違いがあるのはなぜだろう。 ○ 木を空気の入れかわらないところで熱するとどうなるだろう。 ○ ろうそくが燃えるときと何ができるだろう。 ○ 電流による発熱とろうそくの発熱とはどんなところがちがうだろう。 ○ 燃焼以外で発熱するものにはどんなものがあるだろう。	理 TP 6-10	○ 炎を分折的に観察できたか。 ○ 三態変化のようすがわかったか。 ○ 空気との関連で燃え方のちがいがとえられたか。 ○ 木炭の乾留の実験装置を協力してつくったか。 ○ ろうそくやアルコールが燃える時、そのもの以外に何が必要で、何ができるかわかったか。 ○ 燃焼を質の変化としてとえられたか。 ○ 燃焼以外でも発熱するものがあることがわかったか。

単元構造図

燃焼 ———— 物質の変化



実験・資料
くろうそくの炎



6年 社会科 現代の日本 15時間

大単元	小単元	中心概念	基本要素	課題	AV資料	評価
現代の日本	大正の世の中	大戦後の政治状況は、世界への大衆化が見られた。西洋文化の普及が、一方、政治普通化の目ざましい世界への大衆化が見られた。西洋文化の普及が、一方、政治普通化の目ざましい世界への大衆化が見られた。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国への進出と第1次世界大戦による国内の経済の動きがめざましかった。 ○ 生活を守る労働者の民主政治への希求が政党政治や普通選挙に表われたこと。 ○ 西洋文化によるくらしの変化がみられたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大正から昭和にかけて、世の中はどのようにすすんだのだろうか。 	社TP 6-6 SL VT 「大正の世の中」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1次世界大戦の動きと、国内の国民生活の動きがつかめたか。 ○ 大正の民主政治への国民の動きがつかめたか。
	戦争への道	昭和の政治は、はじめ、苦しいが、戦後、国民生活が、戦前よりもよくなった。戦後、国民生活が、戦前よりもよくなった。戦後、国民生活が、戦前よりもよくなった。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不況による政治不信が大陸への進出と軍部の政治介入をもたらし、たこと。 ○ 満州事変、日中戦争、国際連盟脱退などをへて太平洋戦争に突入し、国民は苦しい生活をよぎなくされた。 ○ 大変な犠牲を払いながらも我が国はポツダム宣言をうけいれ戦争を終結した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大正時代の不況により、どうして戦争への道をたどったのだろうか。 ○ 拡大する戦争の中で、国民生活はどのようになっていったのだろうか。 	社TP 6-6 SL VT 「戦争への道」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済と政治の動きが海外進出や、軍部の台頭をもたせさせたことが考えられたか。 ○ 戦争が拡大し、国民生活が圧迫され、多大な犠牲がもたらされたことがつかめたか。
	日本と世界	戦争や敗戦の苦難をのりこえ、我が国は、民主的な国家として、今日にいたっただけでなく、産業の復興や国民生活の向上にめざましい進歩をとけたが、問題も多い。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しく生まれ変わった日本は、どのような国であるか。また、どのように発展していったのだろうか。 ○ 日本がさらに発展するためには、どんな努力をはらわねばならないだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しく生まれ変わった日本は、どのような国であるか。また、どのように発展していったのだろうか。 ○ 日本がさらに発展するためには、どんな努力をはらわねばならないだろうか。 	社TP 6-6 SL VT 「平和な世の中」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国内の新しい政治制度の改革のようすや、意図がつかめたか。 ○ 産業文化の発展と、外交のつながりがつかめたか。 ○ 国民生活にかけをおとす様々な問題に気づいたか。

1 年 国語科 たぬきの糸車 10 時間 (たぬきの糸車 8 時間・発展読書 2 時間)

領域	中心概念	基 本 要 素	中 心 課 題	AV 資料	評 価
読むこと (民話)	<p>人の家に近づくたぬき、そのたぬきを慰めとする人間との愛のつながりと、人間の生き方や真実。</p>	<p>○たぬきのいたずらの様子。 ・まいばんのように。 ○糸車をまわすおかみさんの様子とそれのぞくたぬきの様子。 ・キーカラカラ キークルクル。 ・二つのくりくりした目。 ・二つの目だまもくるりくるりと。 ・だまって糸車をまわしていました。 ○たぬきの様子と、なわをほどこいてやってやっておかみさん。 ・いたずらもんだがかわいいな。 ・たぬきじるにされてしまうで。 ・にがしてやりました。 ○冬の情景 ・木の葉がおちて。 ・雪が降りはじめ。 ・村へおりにいきました。 ○春になってからのできごと ・白い糸のたばが山のように。 ・「はあてふしぎな、どうしたこっちゃん」 ・キーカラカラ キークルクル。 ・じょうずな手つきで。 ・たばねておきにつみかさねました。 ○かえっていくたぬきの様子 ・ふと気がつきました。 ・ぴょこんと ・さもうれしくて ・びよびよんおどりながら。</p>	<p>○きこりはなぜわなをしかけたのだろう。 ○どうしておかみさんは、ふき出しそうになったのだろう。 ○おかみさんの気持ちの変化はどんなことばでわかるだろう。 ○冬の間、きこりふうふとたぬきはどうしていたのだろう。 ○山奥の小屋にかえってきたおかみさんは、戸を明けた時、どうして「あっ」と驚いたのだろう ○たぬきは何がうれしいのだろう</p>	<p>さし絵 TP 各自で作ったさし絵 掛図 さし絵</p>	<p>○おもしろい場面の様子がつかめたか。 ○話の筋がわかることばがみつけれられたか。 ○おかみさんは、たぬきのことをどう思っているか。気持ちの変化が読みとれたか。 ○冬の間、たぬきの行動を想像し、さし絵にできたか。 ○おかみさんの驚いたわけが読みとれたか。</p>

文の構成

① 昔、山奥の一軒やにきこりのふうふがいた。たぬきが、まいばんいたずらをする。

② 糸車をまわすおかみさん。わなにかかったたぬき。

③ 冬のように

④ 春のできごと。たぬきのよろこび。

補充教材
 → (ふしぎなだけのこと)を読む。

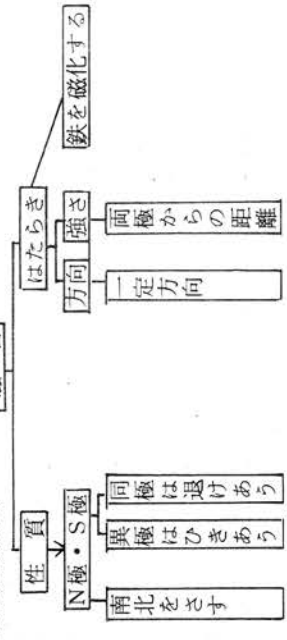
1年 社会科 わたしのうちのしごと 8時間

大単元	中心概念	基 本 要 素	課 題	A V 資料	評 価
わたしのうちのしごと	<p>家により、主として家の職業の違いによるものである。</p> <p>仕事のいそがしい時間や季節、休日の楽しみ方などに違いがある。</p>	<p>○いろいろな職業は、家庭の生活を支えるものとなる大切なものであり、みんながそれぞれ仕事を分担し、協力して仕事を進めている。</p>	<p>○食堂で働いている人たちは、どんな仕事をしているのだろうか。</p>	<p>社 T P 1-4 S L</p>	<p>○ごっこ遊びを通して、食堂の仕事が分担して進められていることがわかったか。</p>
		<p>○父や母の仕事は、職業や時間や季節によって、いそがしさが違う。</p>	<p>○食堂の仕事のいそがしい時や家の人たちの働いているようすを調べよう。</p> <p>○食堂の家の母の仕事と勤めの家の母の仕事を比べてみよう。</p>	<p>S L 社 T P 1-4</p>	<p>○食堂では、時間によって客の数や仕事のいそがしさに違いがあることがわかったか。</p> <p>○家の職業によって母の仕事のしかたが違うことがわかったか。</p>
		<p>○家の職業は、いろいろ違っていてもそれらはお互いにつながっている。又私たちの生活とも深いつながりがある。</p>	<p>○職業の違いによる仕事のようすやいそがしい時のようすを比べてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物を売る仕事 ・たのまれてする仕事 ・会社、工場等 	<p>S L V T</p>	<p>○友だちの発表をもとにして、職業によるいそがしさの違いが比較検証できたか。</p>
	<p>○休日や余暇の利用の仕方は、職業、時間、季節によって違いがみられる。</p>	<p>○それぞれの仕事のつながりをみつけよう。</p>	<p>S L</p>	<p>○仕事に違いがあっても、仕事のうえでつながりのあることに気づいたか。</p>	

理科 磁石の極 7時間

領域分野	中心概念	基本要素	教科書	中心課題	AV資料	評価
B 物質とエネルギー	○磁石には、性質のちがう2つの極があり、その極のまわりには、磁力がはたらいている。	1.磁石は南北をさしてとまる 2.磁石にはN極とS極があり、異極はひきあひ、同異は退けあひ。 3.磁石のまわりにははたらく磁石の強さや方向には、同極からの隔りによって違いができる。 4.磁石は他の鉄(硬鉄)を磁石にすることができる。 5.磁石の保存法	P 84 P 85 P 86 P 87 P 88 P 88 P 89	○磁石を自由に動けるようにしてやると、どの方向を向くだろう ○棒磁石に、方位磁石や他の棒磁石を近づけるとどうなるだろう ○磁石のまわりに方位をおいてやると、方位磁石の針はどこを向くだろう。 ○磁石のまわりに鉄粉(砂鉄)をおいてやると、どんなもようを描くだろう。 ○磁石につけた針はどうか。 ○針で磁石を作ろう。 ○磁石はどのようにしておくとうい。	理TP 3-11	○棒型・U型磁石などが自由に回れるように支える工夫ができたか。 ○どんな磁石でも南北をさしてとまることがわかったか。 ○磁石の2つの極の名称、それぞれの極の性質が理解できたか。 ○方位磁石を使い、極のまわりの方向調べができたか。 ○磁石の方向を図でかくことができるか。 ○磁石につけた針は磁石になっていることがわかったか。 ○針を使って磁石作りをし、方法がわかったか。 ○安全に実験できたか。 ○磁石のしまい方はわかったか。

単元の構造



実験資料

○磁石が自由に動けるようにするには ○針を磁石にするには

針の耳を手でおさえ、同じ方向にくりかえしこする

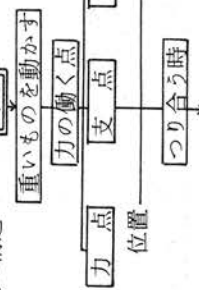
○磁石が自由の糸でつる
きりなどで支える

○磁石の保存法
軟鉄片をつける

5年 理科 11.てこのはたらき 8時間

領域分野	中心概念	基本要素	教科書	中心課題	AV資料	評価
物質とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手でこを傾ける。原理を使うと、小さい力で重い物をうごかすことができる。 ○ 傾ける左右のはたらきが等しいときに、てこはつり合う。 	<ol style="list-style-type: none"> てこには、棒をささええる点(支点)と力のはたらくところの点(作用点、力点)がある。 てこがつり合っているとき、力点と作用点とのそれぞれにかかるとの重さと支点からの距離との間に一定のきまりがある。 てこの支点には、力がはたらいている。 てこを使うと、小さい力で、重いものを動かすことができる。 てこでは、左右の力のバランスがくずれると、回転する力がおこる。 	<p>P 2 5</p> <p>P 2 6 ～2 8</p> <p>P 2 9 ～3 0</p> <p>P 2 4 ～2 8</p> <p>P 2 4 ～2 8</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ カッター、はさみ、せんぬきなどの力点、作用点、支点はどこだろうか。 ○ 支点が中にあるてこで、つり合っていないとき、つり合わせるにはどうすればよいらう。 ○ 支点が中にあるてこがつり合うとき、支点の左右の重さと距離にはどんな数量的関係があるらう。 ○ 支点がはしにあるてこにも、支点がなかにあるてこのときのつり合いのきまりがあてはまるらうか。 ○ 支点が中にあるてこでは、支点にどんな力がかかっているらう。 ○ 支点が外にあるてこでは、支点にどんな力がかかっているらう。 ○ 棒を使って小さい力で重いものを動かすにはどうすればよいらう。(方法) ○ おもりは、場所の位置によって、どんなはたらきをしているらう。 	<p>理 T P</p> <p>5 - 9</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ カッター、はさみ、せんぬきの力点、作用点、支点はどこかわかったか。 ○ てこをつり合わせる時、支点からの距離、おもりの重さなどを予想をもつて変えていたか。 ○ 実験用てこを使って、てこのつり合いを数量的に測定し、結果を記録できたか。 ○ つり合うとき、右側と左側の(重さ×支点からの距離)がいつも等しいことがわかったか。 ○ 支点がはしにあるてこでも、上のきまりが成り立つことに気づいたか。 ○ 支点が中にあるてこの支点には、棒の重さとおもりの重さがかなっていることがわかったか。 ○ 棒を使って、重いものを動かす方法がわかって、実際にできたか。 ○ てこの原理を応用した遊具を見つづられたか。

単元の構造



実験資料

- 日常生活の道具
1. 支点が中にあるもの
くぎぬき 西洋ばさみ てんびん
やっこ ペンチ せんたくばさみ
 2. 支点がはしにあるもの
・力点のはし コルク押し せんぬき カッター
・作用点のはし ピンセット 毛ぬき 日本ばさみ

$$\boxed{\text{作用点にはたらく力}} \times (\text{支点から作用点までのきまり}) = (\text{力点にはたらく力}) \times \text{支点から力点までのきまり}$$

5・6年 難聴学級 算数科「考えましよう」 5時間

領域	中心概念	基本要素	中心課題	学年	時数	AV資料	評価																																																																																																					
数量関係	多角的に数量関係をとらえそこから変化の規則性を推論し、それをことばや式で表わす。	<p>1. いろいろな場合を考えて、他の場合を類推する。</p> <p>2. 変わり方に着目して、規則性を発見する。</p> <p>3. 法則を数式や文字式に表わす。</p> <p>4. 目的にあった表を作成する。</p>	<p>○数表の数の位置と変わり方に着目して、数の関係を見つげよう。</p> <p>・正方形を使った問題</p> <p>・直角二等辺三角形を使った問題</p>	<table border="1"> <tr> <td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td> </tr> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td> </tr> <tr> <td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td> </tr> <tr> <td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td> </tr> <tr> <td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td> </tr> <tr> <td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td> </tr> <tr> <td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td> </tr> <tr> <td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td> </tr> <tr> <td>8</td><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td> </tr> <tr> <td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td><td>16</td><td>17</td><td>18</td> </tr> </table>		1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	共通	1	TP (数表) カラシート ・正方形 ・直角二等辺三角形	いろいろな場合を作り出すことができたか。 数の関係のことばで言い表わすことができたか。
			1	2	3	4	5	6	7	8	9																																																																																																	
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																			
2	3	4	5	6	7	8	9	10	11																																																																																																			
3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																																																																																																			
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13																																																																																																			
5	6	7	8	9	10	11	12	13	14																																																																																																			
6	7	8	9	10	11	12	13	14	15																																																																																																			
7	8	9	10	11	12	13	14	15	16																																																																																																			
8	9	10	11	12	13	14	15	16	17																																																																																																			
9	10	11	12	13	14	15	16	17	18																																																																																																			
		<p>○数の少ない場合の規則性をもとにした数</p> <p>・ひもを切って、折り方と本数を調べる問題</p> <p>・おはじきを並べて、個数の差を考える問題</p> <p>○2mおきにならないだときの人数と問の数を考えよう。</p> <p>並び方 — L O P A など</p>	<p>○数表の数の位置と変わり方に着目して、数の関係を見つげよう。</p> <p>・正方形を使った問題</p> <p>・直角二等辺三角形を使った問題</p>	5	2 2	TP (表) カラー タイトル (OHP用) TP (図)	文を読み、それを具体物で操作することができたか。 変化のようすを表に整理することができたか。 2人で間は1つ、重なるところはどの部分でも1人で2人分の働きをしていることに気付いたか。 安い物の数を増すと売上高は減り、高い物の数を増すと逆に増えることに気付いたか。 表にまとめる場合の観点がわかったか。 表にまとめられたか。																																																																																																					
		<p>○変わり方のきまりを見つけよう。</p> <p>・売上高と全体の個数を一定にして、売値の異なる2つの品物の個数を求める問題</p> <p>・一方の数を2倍、3倍にして、他方の数との差に着目して考える問題</p> <p>○いろいろな場合を順序よく調べて、なるべく安くするために、どのような組み合わせがあるか見つけよう。</p>	<p>一方を2倍、3倍にすると2つの数量が同じ条件で比べられることの意味の理解ができたか。 なるべく安くするためにという目的に沿って考えを進めていったか。</p>	6	3 1	TP (表) カラータイトル (OHP用)																																																																																																						

6. 分科会

12:25 ~ 2:50

分科会テーマ	校種	番号	提案者	司会者	指導助言者	会場
I 教科学習 指導法	小	1	福田節子(竜野西小) 古隅利量(姫路安室小) 三村覚次(船場小) 赤垣美智子(城南小)	兵庫 古知小長夫 尾上茂頭 姫路 船場小頭 上月二郎	竜野、小宅小長 晴 治 姫路荒川小長 田 孝 人 姫路市教委指導主事 瀬 良 賢 一	1の1 南校舎 1F
	小	2	梅村孝雄(豊田小清水小) 上野勝己(姫路広峰小) 苗村進弘(安室小) 堀江廣貴(城南小)	姫路 旭陽小長勝之助 宿南勝之助 姫路 広峰小教 丞 桜井	愛知県教委指導主事 荻原克己 兵庫県教委指導主事 佐方直陽 姫路市教委指導主事 和田直	1の3 南校舎 1F
	小	3	小島正典(春日井高座小) 黒田紀子(竜野小宅小) 今井猛俊(姫路城北小) 福田敏博(旭陽小)	春日井 中央小教史 加藤孝長 姫路 広峰小長 鉄 郎 岩倉	兵庫県教委指導主事 浅野慶隆 姫路市教委指導主事 大西忠雄	2の1 北校舎 1F
	中高	4	堀場正美(春日井東部中) 賀戸文夫(広島豊中) 原田守(姫路琴陵中) 福島達郎(白鷺中)	保谷市 保谷中教み 金原き長 兵庫 置塩中長 利 夫 上野	広島、豊中長 田 正 彦 小平、小平第4中、頭 望 月 和 三 郎	2の3 北校舎 1F
II 同和教育	小	5	市場郁也(姫路八木小) 本条彦義(旭陽小) 中川たつ(城南小)	姫路 豊富小長嘉造 鎌谷嘉造 姫路 高岡小長 幸 雄 梅宮	姫路城北小長 浦 岡 正 介 姫路市教委指導主事 島 津 一	3の1 北校舎 2F
	中高	6	熊野文男(姫路林田中) 能勢三成(高丘中) 田中稔郎(白鷺中)	広島 大崎高教津代 佐伯志津代 姫路 白鷺中頭 照 夫 牛尾	広島、大崎高 越 智 昭 孝 士 姫路東光中長 八 木 武 士 明 姫路市教委指導主事 高 坂 芳 明	3の3 北校舎 2F
III 学習集団 づくり	全	7	常城重代(竜野神岡小) 山本進(姫路高岡小) 井上大和(城北小) 内海康治(白鷺中) 常陵友子(城南小)	土岐市教委指導主事 彦 彦 小島幸教 一 春日井 神鍋小教 一 今尾啓 一 広島 大崎高 岡 本 一 士	豊川、中部中長 井 仁 徳島、前福島小長 恒 夫 姫路市教委指導主事 吉 田 武 男	白鷺中 体育館
IV 教育機器 の活用	全	8	森 清治(携保御津中) 高橋正(姫路琴陵中) 平井均(城南小)	姫路 八木小長 豊 中川小 豊 姫路 琴陵中教 司 大西豊 司	広島、竹原中長 政 夫 秋 月 政 夫 土岐市教委指導主事 村 瀬 卓 郎 姫路市教委指導主事 鹿 浦 昇	AV1 教室 北校舎 1F
V 特設バス	全	9	加藤倅一(姫路林田中) 矢内正弘(琴陵中) 田中誠(城南小)	春日井 篠木小教雄 松本重雄 姫路 林田中長 進 永 浜	土岐、泉中頭 清 水 快 雄 姫路白鷺中長 永 井 辰 夫	4の1 南校舎 2F
VI 生活指導	全	10	吉良義宏(高知野根中) 秋山光起(土岐泉中) 長縄秀孝(春日井藤山台中) 森谷英夫(滋賀五個荘小) 道上昌幸(姫路白鷺中)	姫路 高丘中頭 宏 浜田中頭 宏 姫路 琴陵中頭 昌 司 国 永 昌 司	大阪、寝屋川第5中頭 藤 昭 宏 姫路市教委指導主事 黒 田 耕 司 姫路市教委指導主事 得 平 重 夫	城南幼 遊戯室
VII 障害児 教育	全	11	多根貞武(姫路白鷺中) 大畑 稔(城南小)	豊川 千両小頭 克 丸山正 浩 竹原 竹原中頭 義 林 竹原中頭 義 一 姫路 白鷺中教 田 良 増 田 良 一	兵庫県教委指導主事 有 本 一 美 姫路市教委指導主事 加 藤 実 姫路市教委指導主事 藤 本 貞 治	4の3 南校舎 2F